令和七年度　第三十六回　豊の国ねんりんピック

短歌・俳句・川柳展【作品集】

言葉で伝えようとすると
嘘っぽくなるから
言葉以外の言霊を探す
あゝ　この気持ち
真っ直ぐ君に届け

主催　大分県　大分県教育委員会　社会福祉法人大分県社会福祉協議会

令和７年度　第36回豊の国ねんりんピック

短歌・俳句・川柳展　【作品集】（通巻36号）

目　　次

短歌の部

短歌全体評　大分県歌人クラブ 顧問 伊勢 方信 …… 1
伊勢　方信　選 …… 2
山本和可子　選 …… 4
太田　宅美　選 …… 6
短 歌 作 品 …… 8
企画ページ「山本 和可子」「太田 宅美」…… 30
大分県歌人クラブの紹介 …… 32

俳句の部

俳句全体評　大分県俳句連盟 会長 吉原 白天 …… 33
吉原　白天　選 …… 34
阿部　王一　選 …… 36
中尾　豊子　選 …… 38
俳 句 作 品 …… 40
企画ページ「阿部 王一」…… 75
大分県俳句連盟の紹介 …… 76

川柳の部

川柳全体評　大分県番傘川柳連合会 幹事長 髙木 豊柳 …… 77
福澤　廣明　選 …… 78
藤田　勘芳　選 …… 80
髙木　豊柳　選 …… 82
川 柳 作 品 …… 84
企画ページ「髙木 豊柳」…… 102
大分県番傘川柳連合会の紹介 …… 103

作品応募状況 …… 105
応募者数（男女別・市町村別・年齢階層別） …… 106
次回応募はがき …… 巻末

表紙／「うど」河野　龍児

【運営協力】

大分県歌人クラブ　　大分県俳句連盟　　大分県番傘川柳連合会

※最後のページに、次回の応募用のはがきがあります。
ミシン目に沿って切り離してご利用ください。
※募集期間は、来年（令和八年）の一月一日から一月
三十一日までです。

短歌の部

審査協力　大分県歌人クラブ

	応 募 者 数	作　品　数
短　　歌	（人） ２６３	（点） ２６３

短歌全体評

寄せられた作品の多くに、敗戦後の復興と共に八十年を経て、急速に変容する社会のあり方や、価値観の変化などに歩幅を合わせることなく、年齢を重ねる中で培ってきた社会観や、人としてのあり方などを守りぬき、自分らしい生き方を選んだ、心のゆとりを感じさせられます。

何よりも、レトリックな詠み方に恃(たよ)ることのない、素直な気持ちの発露がうかがわれる作品には、心を打たれます。

大分県歌人クラブ
顧問　伊勢　方信

伊勢　方信　選

特　選

老境に入りし娘の声優し時雨のような淋しさがくる

浦田　照（大分市）

〈評〉老いの境遇に達した娘の声が、母親への慈しみを、厚くしてきたことが感じられる。これからの親娘の歩む老後の生き方を思うとき、不意に湧いてくる淋しさを「時雨のよう」ととらえて、歌境を深めている。

入　選

つくろいて履くくつ下に満足す気づけば亡母（はは）に似たる生き方

城井　俊子（大分市）

〈評〉靴下に限らず、生前の母が繕ってくれたすべてに、子どもへの愛しみが流れていることの、尊（たっと）さに気づいた作者の思いは深い。

入　選

諍ひし遠き記憶を偲びつつ野道に母の車椅子押す

加藤　賢二（豊後大野市）

〈評〉世代の違いで、何かにつけて衝突することの多かった母。加齢によって、当時の母の気持ちが自分のものとなった。下の句が重い。

入　選

急逝の父の遺品の中にある五年日記の二年の余白

後藤　明彦（宇佐市）

〈評〉「二年の余白」が訴える、急逝の父の無念を、真正面から受け止めている作者の無念が、我がことのように伝わってくる。

山本 和可子　選

特　選

「さびしいね」吾の問ひかけを野良猫は大き欠伸に一呑みしたり

深蔵　一子（中津市）

〈評〉絵本の名作「１００万回生きたねこ」を思い出す。淋しくなんかない野良猫の悠然たる大欠伸が一呑みしたのはお婆さんの淋しさではないか。哲学的思考の歌をゆったりとした空間の中にリアルに描いた秀作。

入　選

九十路（ここのそじ）で迎え送りに支えられ古文書詩吟の教壇楽しむ

佐藤　満洋（大分市）

〈評〉人生百年時代の生き方を示す歌。卒寿になっても教えを請う生徒がいる。送迎して支えてくれる方への感謝が滲み、率直な表現が魅力。

入　選

連れ合いて七十年を迎えし日仲人の墓を妻と掃除す

糸永　光（国東市）

〈評〉若くして難しい選択を迫られる結婚。婚七十年の幸せは仲人あってこそと墓掃除で感謝を捧げるふたりは夫婦の鑑、人間の鑑である。

入　選

この年も鹿の声なく過疎の里木の葉時雨の秋は過ぎゆく

河野　龍子（佐伯市）

〈評〉晩秋の鹿の恋は忙しく雨でも鳴くのか、古歌に夕時雨と鹿の声を合せた歌も多い。「過疎の里」から「木の葉時雨」に移る韻きが絶妙。

太田　宅美　選

特　選

黄に染まり赤に染まりてゆうゆうと我が人生の老いを楽しむ

林　豊海（大分市）

〈評〉大雑把な歌と思ったが、独自性があり読者に色々と委ねる骨太が好ましい。上の句で黄葉と紅葉を案じさせ、自然界の成行きに身を処し乍ら、くよくよせず、欲張らず、周りと協調することで諍いなく平和の原点に遡（あっぱれ）。

入　選

阿蘇岳の山肌白し放牧馬も厩に帰る師走となりぬ

伊藤　美佐子（杵築市）

〈評〉短い秋が急に冬姿に移った阿蘇五岳を背景に、放牧の馬も冬入りで畜産者へ心を深く寄せている。百米に0.6℃気温が低下する自然界だ。

入　選

軍服の父の遺影に目守られてわれは八十路の嫗となりぬ

中釜　淑子（大分市）

〈評〉戦地より無事に生まれて欲しいと願い乍ら国に一命を捧げられたお父上に見守られ、一家を支えてくれた母への感謝も内在する。祈、健康。

入　選

何よりも嬉しきことよお寺よりお祝ひ届く百歳の母に

山田　義空（別府市）

〈評〉人生百歳時代を実践してくださった母を菩提寺より真っ先に祝われ、そのうち役所からもだろうが、全国的にはまだ十万人未満だろう。

佳作

風貌は主には負けずカバン持ち公務のらしき付かず離れず　廣戸　秋義（津久見市）

通学の見守りは三十五年過ぐ齢八十に「おはよう」の声　大野　修司（別府市）

能登地震非難苦しむ高齢者明日は我が身と心いたみぬ　森　孝子（大分市）

風に乗り太鼓のリズム打ちならす輝きの瞬間（とき）明日を開く　辛島　恵子（豊後高田市）

満天に「宮沢賢治」とふ星なれば貧しき母子を照らし給ひし　秋吉　瑞枝（宇佐市）

手作りの焼き餃子は味じまん家族に笑顔亡き母しのぶ　西尾　千秋（別府市）

毎日をまわりの愛に助けられ夢を見ながら今日も楽しく　深田　博文（竹田市）

ことごとく葉の輝きて小鳥啼くここに新年まことにうれし　油布　晃（竹田市）

秋風のとおりすぎゆく光る海青空のはて飛び立つカモメ　原田　洋治郎（豊後大野市）

神像の速玉夫須美（はやたまふすみ）に拝みて父母に守らる慈愛を覚ゆ　樋口　繁子（杵築市）

老坂の思ひ乱れて風震る影坊巨く後日にせよと　端　鳥（国東市）

下山して由布院の湯より見上げ見る豊後富士なる由布岳山頂　佐藤　政俊（竹田市）

初詣の石段登を二度三度休みやっと神殿に着く　市川　松代（佐伯市）

佳作

背戸に座し七輪に老夫（つま）の煎るあられゆきつもどりつつまみては食ぶ　甲斐　史子（大分市）

初七日に高い所（とこ）より母の声きこえて来居り優しいかったと　つわぶき花（津久見市）

永久（とわ）にない隣で生きる心地よさ痛む夫の身擦りて思う　染矢　美幸（佐伯市）

萎えるなと己鼓舞してスクワット病魔砕いてしぶとく生きる　中島　尚之（国東市）

孫たちの拾いて遊びし南天の実捨てがたく吾が持つ　三島　里子（玖珠町）

突然の友の訃報に驚きぬ生の不条理苦い珈琲を飲む　藤内　浩（別府市）

佳作

妣つくる茄子と河豚との味噌汁を恋うる夜のあり齢増すごとに　藤野　恵美子（別府市）

同窓会白髪頭に禿頭児童（わらべ）となりて親友（とも）と語ふ　玉井　郁夫（豊後大野市）

ヒゴタイを写メールしたい盆がくるノーベル平和賞の言葉添え　佐藤　文人（由布市）

特選

佳作

老境に入りし娘の声優し時雨のような淋しさがくる　浦田　照（大分市）

子供らと波止で釣りする夕まぐれ孫は飽きたか一番星さがす　速見　由樹（佐伯市）

佳作

出生数は八万減りて佐伯市と津久見市と臼杵の一部が消えた　泥谷　貞子（佐伯市）

聞こえくる赤子の泣く声懐かしむ過疎の町より訪ね来し友　首藤　ユミ子（別府市）

献血が最後の齢の古希迎え世への貢献まだできるのに　矢野　肇（大分市）

ＭＶＰ呱々の声待つ二刀流命の息吹きリトルルーキー　神徳（こうとく）　和雄（津久見市）

仕事終え腰をのばせば茜雲染まりし景色暫しあそべり　小関　美智子（日田市）

明け方の薄きひかりの中に聴くあめ垂直に地を打てる音　深田　良子（豊後大野市）

サックスの奏でる音や演歌節福祉施設のクリスマスイブ　蒼　天（宇佐市）

曙の赤くきわだち鳥一羽生きぬきてみむ命の限り　安藤　幸枝（豊後高田市）

息は帰るテールランプが角に消え独りの家の玄関締める　杉本　昭夫（大分市）

過疎のさと黄金の落葉は拡幅の重機おほいて初春迎える　田中　和子（佐伯市）

息子は胃がん私は乳がん健診結果「ドキッ」とする私息子は急がする　小関　美智子（日田市）

霜の朝亡母（はは）の手縫いのはんてんをはおれば温くし真綿と愛で　竹下　早苗（宇佐市）

脚曲がり杖つく母と麻痺残る夫が笑顔で語り合ってる　石垣　美恵子　（大分市）

ふくふくと花豆を煮つつわれを待つ亡き母うかぶ土間の竈（へつつひ）　久下　つま子　（別府市）

佳作

アルバムと未練を捨てて本棚の余白に残る塵の明るき　入田　良子　（別府市）

卒寿来て云いたい事は数あれど七分で済ます娘も大人　久保　スマ子　（宇佐市）

ピーラーでむいてしまいし富有柿の皮が積もりて秋深まりぬ　安藤　淑子　（大分市）

峠来て照葉毎散る下は故郷（さと）義姉は独居広き農地に　穴井　和子　（玖珠町）

入選

阿蘇岳の山肌白し放牧馬も厩（うまや）に帰る師走となりぬ　伊藤　美佐子　（杵築市）

足どりは少し遅くになりしとも街でのランチ行ける幸せ　迫村　裕子　（大分市）

御神木楠木切り株夫と眺め落葉掃きした日々なつかしき　中江　伸代　（竹田市）

寒村に代々続く生まれ家が世代の流れ終に跡絶える　村上　伸男　（別府市）

佳作

手をとれば「はじめまして」とラフランス見つむる義姉は恍惚の人　立花　和子　（日田市）

佳作

冬休みスマホ三昧帰省の子対話の欲しや五歳の頃の　岡野　しずこ　（国東市）

佳作

準夜勤終えて帰宅し娘のメモのごちそうさまに二重まるあり　中鶴　政子（佐伯市）

冬ざれの土手をひとりで歩く時ちいさき蓬の若葉と出会う　髙橋　登代子（佐伯市）

篠栗の峠の寺の出開帳真心込めて砂踏みしめる　岡田　真知子（国東市）

穏やかな雲ひとつない元旦の川辺に憩う鴨の親子は　上野　眞知子（大分市）

トランプの神経衰弱おさな孫二人と遊ぶ年越の夜　澤田　美弥子（佐伯市）

おめでとう皆で出迎えハグされてやっぱり元気はデイのおかげか　穴井　幸雄（日田市）

君を待つ10年の恋天の川暮らしに根付くランデブー記念日　阿部　修二（杵築市）

身近にて海岸線の散歩道気分転換最高の場所　伊東　茂子（臼杵市）

ゆずの香のほんのりと立つ冬至の湯肩までつかり一首ねりたり　小深田　藤美（国東市）

入選

佳作

諍ひし遠き記憶を偲びつつ野道に母の車椅子押す　加藤　賢二（豊後大野市）

戦死した人の数にも母が居た昭和も昔幻の中　大下　昭子（大分市）

二十年を五千歩足らずのウォーキング高校下は駆けて温もる　西﨑　廣江（大分市）

入選

九十路（ここのそじ）で迎え送りに支えられ古文書詩吟の教壇楽しむ　佐藤　満洋（大分市）

元日をひとり朝寝の気がねなく安楽椅子に子守歌聴く　藤原　啓司（大分市）

初詣合格祈願それだけでほかに欲張る願い事なし　西田　三津子（佐伯市）

新玉の巳年に誓う少年の夢は竹刀に素振千回　後藤　正人（大分市）

夢は医師諦め早く大学は文科を選び教師にて終ふ　安達　郁雄（国東市）

常日頃嫁の気配り手をあわす亡き夫に告ぐ日々幸せと　佐藤　小夜子（由布市）

老いふたり男女（おとこおんな）はどちらでも出来ることから二人三脚　粟津　功子（のりこ）（臼杵市）

長雨の止みて梅雨明け知らすやうジージーワシワシ蝉に夏来ぬ　守田　文子（中津市）

湯たんぽの昔なつかし幼い日祖母とぬくもり肌で感じた　小山　ヨリ子（豊後高田市）

物事の眞髄速く理解してわからぬでなく判って進もう　工藤　睦子（竹田市）

佳作

ぬばたまの闇に寝る夜の「おやすみ」は明日も明けると信じて呟く　吉田　紫紅（別府市）

佳作

つながりていたき人より賀状じまい風の便りを待つ身となりぬ　坂本　雅則（豊後高田市）

目の前で鳴き踊声ウグイスに足止め恵み健康笑顔　春待つウグイス　（別府市）

天災を乗越え生きる人々の営み続く山の湯の宿　御手洗　金重　（佐伯市）

一杯の甘酒の味残る舌正月三日過ぎたる今日も　林　スミ子　（国東市）

佳作

戦中より九十二年を歩き来し無学な吾れを支へし汝と　林　成敏　（国東市）

海辺よりバスに乗り来し媼今隣に座り磯の香のする　寒田　綾子　（国東市）

暖かき日射しに誘われ午後の日を老同志姉と散歩に出でゆく　金林　政子　（国東市）

軒先に茜に染まるすだれ柿つるす干柿音符の如し　小山田　正　（国東市）

幼き日ビールの泡を舐めし孫就職なりて夫と乾杯　近藤　節子　（国東市）

朝の陽に膨らみかけたお茶の花お幼の頬に似て福福し　手嶋　朱美　（国東市）

入選

佳作

連れ合いて七十年を迎えし日仲人の墓を妻と掃除す　糸永　光　（国東市）

風になる墓には居ないと言いし母今日は居ますか十七回忌　三浦　保子　（国東市）

霧の帯裾に巻きたる岡城址八十路の一歩今ぞ踏み出す　桜井　勝己　（竹田市）

大勢の人に惜しまれ突然に義妹は逝く紅葉散る時　遠入（えんにゅう）　和子　（中津市）

アルバムの内気な妻はいつも端微笑の遺影正面に座す　桑原　繁夫　（由布市）

さびれゆく里を守ってはげむ姉ひとり暮らしを笑って越える　小野　孝子　（豊後大野市）

来賓に添いとぐ秘訣たずねられ顔見合わせるダイヤモンド婚　佐藤　芙美子　（由布市）

人恋し玄関ひらけば一ぴきの小猫さびしく発ちさりし　古城　千佐子　（国東市）

特選

佳作

「さびしいね」吾の問ひかけを野良猫は大き欠伸に一呑みしたり　深蔵　一子　（中津市）

佳作

大国の暴君に似てかんねかずら境を越えて田を攻めはじむ　大塚　常代　（竹田市）

空蝉となりゆく己を感じつつ語る友なき昭和一桁　後藤　清人　（竹田市）

佳作

こみあげる涙こらえてページ繰る「はだしのゲン」は二歳年下　森下　菊男　（豊後大野市）

亡き母のお襁褓（むつ）替えつつ呟きぬ「嬰児（みどりご）の時の恩返しす」　森下　ユミ子　（豊後大野市）

空高し今日は遠出の高尾山年寄りたちの少し前行く　緑田（あおた）　しぶる　（大分市）

去年の山に今日は来て採る棒ワラビ夫の指さす野茨のもと　石吾（いしご）　弓子　（日出町）

入選

生日のめくる日捲り仏滅か格言もあり「始めが肝心」　内山　淨子（せいこ）（別府市）

書きぞめの筆を運びし白紙には苦楽を秘めたる墨のにほいぞ　河野　光子（杵築市）

病床の夫を想いて一人居の窓より眺む冬の三日月　柴田　カヨ子（佐伯市）

軍服の父の遺影に目守（まも）られてわれは八十路の嫗となりぬ　中釜　淑子（大分市）

酒しょう油加えし鍋の黒鯛の切身そりつつ縮みてゆけり　杉原　一恵（佐伯市）

バスに乗り車窓の景色を見るゆとり免許を放した褒美の一つ　廣田　キミ子（臼杵市）

両子路を孫の車でドライブす切岸に映ゆる紅葉一本　小石　幸子（日出町）

冬海に海草探し卵産む湧き水ありて稚魚育つ　上城　義信（杵築市）

携帯の不具合ありて思い知る普段の暮しに溶け込みすぎて　加藤　喜久子（津久見市）

サンタさん子らの夢のせ舞いおりし遠き近きに喜びの声　井上　のり子（中津市）

厳寒にあちこち痛む老いの身は薬りを友と持ち歩く　東　登久恵（臼杵市）

命日に父の好みし鰺寿司を妻は握りて仏壇に供ふ　平井　寿広（豊後大野市）

農道の椿は年毎花増やし余年の減りゆく吾を励ます　大塚　勝正（由布市）

戦国の世もかくありしか数増しぬ異国語に会ふ宗麟の町　佐野　弘一（大分市）

さそわれて野上弥生子の生家（さと）を訪い土蔵に試食の赤味噌を舐む　久山　清江（すみえ）（中津市）

孫姉妹訪ね来たりし曽孫連れ北風寒く心は温くし　穂豊（ほうすい）（豊後大野市）

老いゆば親は子に従うべしといふ諺（ことわざ）の如く生きて幸におり　南　悦子（日出町）

地上では地震情報ながれども冬空澄みて満月の見ゆ　山内　京子（佐伯市）

耳遠く足腰痛み我が身体五七五七七趣味持ち学ぶ　髙橋　千賀子（竹田市）

新春に昭和１００年振りかえる激動の日々我身は傘寿　宮﨑　照代（大分市）

孤独死と知人の噂聴く師走淋しかったね涙止まらず　冨米野　トミエ（大分市）

寺の鐘合図に出かけるウォーキング今宵は三ヶ月西空に見ゆ　柳内　トク子（佐伯市）

一瞬に平和な暮らしさらはれて能登に日常もどるはいつの日　髙野　隆子（佐伯市）

初詣で無病息災孫曽孫無事を願って柏手を打つ　清柳（せいりゅう）（竹田市）

入選

佳作

豪雪の映像に想い馳せつつに窓の日差しを夫と分け合ふ　安藤　すみれ（佐伯市）

古里の山に桜と楓植う数年のちの春秋想ひて　岡野　公子（中津市）

終戦の年に生まれし吾に届く引揚体験兄よりの文　米持　知子（宇佐市）

ふたりしてこれも年だと米作り辞めて農機に深く感謝　宇薄（うすずき）　晴美（臼杵市）

六十年ぶりに再会果たしし三人の口遊むのは小学校々歌　石井　蓉子（大分市）

初夢に出で来し夫がさしのぶる手に触れぬまなく消えてゆきたり　梅木　至子（大分市）

つくろいて履くくつ下に満足す気づけば亡母（はは）に似たる生き方　城井　俊子（大分市）

朝夕に慣れたる裏の勝手口転びて骨折不覚を悔いぬ　安藤　ケサヱ（杵築市）

日本晴れ阿蘇のすすき野通りすぎはるか拝むる高千穂の峰　神原　泰子（中津市）

背中への夫の掛け声こだまして四百段を登りきりたり　廣田　静代（佐伯市）

霜深くしいたけ採りだ凍える手白い息吐きあたためてみる　吹田（ふきた）　満子（佐伯市）

今年こそ今年こそはで最早喜寿動き始めし令和７年　臼野　青雲（豊後高田市）

人選

佳作

短縮のローマ字文字の多し今いかに思うや福澤諭吉　あやか（豊後高田市）

ばあばあと声かけし男孫中学に口数少なき成長し初む　重末　伸代（大分市）

老夫婦揃いて駅の手すりもちふりむく姿に初日の出　麻生　初子（津久見市）

厚き雲徐徐に流れて部屋いっぱい冬日の入りて心満ちゆく　西村　敦子（国東市）

昨日今日明日を幾度繰り返す人生といふ旅の果てまで　瑠璃（宇佐市）

急逝の父の遺品の中にある五年日記の二年の余白　後藤　明彦（宇佐市）

伯父の忌に読む最終の軍事便誠忠の文字今はむなしく　長畑　孝典（大分市）

待望のドラマ終りて又すこし古典にふれてみたき心地す　柴田　祐子（佐伯市）

大国にもどすと呼ぶ人選び星も月さえうつろに光る　後藤　靖（せい）（大分市）

風なぎし梢の間より朝の月令和七年穏やかにあれ　加藤　智子（大分市）

広びろと野に咲く百合を夢に見し覚めたるのちの快感ふかし　友成　節子（国東市）

停戦の知らせにガザの児の笑顔画面見つむる我も笑顔に　奥野　律子（宇佐市）

山ほどの薬のみほし早や十年今も変らぬ我が病いわ　高村　忠　（日田市）

原発に追われ追われて野に放つ牛飼人の寡黙なる顔　三重野　憲治　（宇佐市）

「無言館」入場者の心打つ客は黙（もく）して想いをはせる　岸本　成子　（大分市）

老猫と共に起床す冬の朝朝餌（あさえ）の用意し食欲うかがう　矢野　香代子　（国東市）

歌会の声弾みたる参集殿外には雪の音もなく降る　本浪　純子　（宇佐市）

夭逝の母の面かげ秋桜八十路の吾に寄り添う如く　小林　しげる（豊後大野市）

とりどりの傘の動きの途切るるや小学校は八時の近し　佐世　弘重　（臼杵市）

笑い声外まで洩れる娯楽室カラオケ流る大利根月夜　藤延　秀則（豊後高田市）

短歌詠む感性高く草花や景色を眺め季節を悟る　吉田　勝徳　（臼杵市）

あたたかき老人ホームに入所して地上の楽園にぎりしむ　日名子　隆　（大分市）

生きてゐる証も顔も消し去るや筆仕舞とふあいさつ淋し　児玉　直　（大分市）

子らの声こぼれ来そうなすりガラス窓宗太郎分校々舎現存す　小野　洋子　（佐伯市）

入選

この年も鹿の声なく過疎の里木の葉時雨の秋は過ぎゆく　河野　龍子（佐伯市）

人生に歴史重なりふりかえるよく耐えてきて米寿迎え　戸山（とやま）　昇（のぼる）（日田市）

晴れわたる空あたたかく庭先に今朝いちりんの白梅の咲く　三又　陽子（大分市）

お遍路を終えたと友の便りには熊野へまいり家路につくと　大仲　敏明（国東市）

空港はキャリーケース持つ人の群れこの先いづこへ人生運ぶ　藤内　和子（大分市）

マスコミは人を持ち上げ隙あらば嘘も交えて奈落におとす　釘宮　知佳子（ちかこ）（大分市）

せり水菜白菜小松菜法蓮草すずなすずしろ七草粥炊く　安永　やす子（玖珠町）

どうせ死ぬだからチャンスはいつも今ときめいて生くジャズに短歌に　宿利　スミ子（玖珠町）

そこかしこさえずる雀見なくなりいずれ人にも危惧する未来　森田　さとみ（大分市）

米寿とてまだまだ若いぞ手の甲に見本のルージュ付けて色選る　井上　ミドリ（大分市）

不安あり月着陸の夢叶う画像届けと願う瞬間　今永　恵子（中津市）

香しき蝋梅活けし仏間には早春の陽のみちみちている　坂本　美津子（宇佐市）

インプラントしたい夫は八十(やそ)の坂元とるまでは長生きしてよ　中村　洋子（豊後大野市）

混迷の時代の中をせい一杯ひとり生き抜く巳年の明けたり　志賀　十千美（竹田市）

朝からの雨が雪へと吹雪けり限界集落呑み込まれゆく　原(はら)　比呂子(ひろし)（国東市）

イチロー氏日米共に殿堂入り満票逃すそれにゃ寛容　三代　洋一（大分市）

くすり呑む朝昼夜と何種類数の多さにお腹いっぱい　松川　眞代（杵築市）

孫からの年玉もらい元旦にグラスかたむけ祝い酒飲む　矢野　春子（杵築市）

九十五「嘘」と云はれる嬉しさに夢をいだいて二キロの散歩　財前　春子（杵築市）

芹なづな　つくし　かんぞう　九十年山家暮しの楽しかりけり　生野　ミドリ（由布市）

若き日の岳友不意に訪れぬ今の夢中と不安聞き合う　香嶋　章子（佐伯市）

白梅とサザンカの花咲き揃い春の訪れ告げてくれてる　時枝　悦子（大分市）

墓碑銘は昭和17年南方にて軍曹の墓に雪は降り積む　加津代（大分市）

けもの道ふみ残されし冬苺はこぼれし日差しに皇めきひとつ　衛藤　博幸（宇佐市）

七年たちやっと一つの実をつけたデコポン切りし仏壇にそなう　すみれ　（大分市）

墓道をつたない足で登りゆけばほうびの様なさざんか三輪　村上　信子　（大分市）

いっせいに花さく前の静かなる大地の鼓動水脈（みを）深かりし　志津里　瑞穂子　（由布市）

はらはらと舞いて朽ちゆくもみじ葉は情念焦がし土と還らむ　豊田　波満（はま）　（別府市）

霊柩車ホテルの前を徐行せり彼は永年ホテルのコック　俊　平　（杵築市）

夫送り一人さみしき山あいを守りきれるか八十路の吾が　廣岩　和子　（杵築市）

何よりも嬉しきことよお寺よりお祝ひ届く百歳の母に　山田　義空　（別府市）

時流れ老いゆく我は八十七残り人生神まかせなり　湯口　早苗　（中津市）

麻酔より醒めてもの言う妻の声聞きとらんとして顔を近づく　大分市みやび　（大分市）

幾千羽埋葬なすや殺処分香の揺蕩ふよ卓の唐揚　野林　鈴代　（大分市）

遠く去りゆく過去はもう追わずして花の宴の匂ひまちかね　後藤　ミツ子　（大分市）

コロナ禍に友との別れは叶わざり大きなお声が脳裏を彷徨う　小俣　芳女（よしこ）　（国東市）

ギィーと鳴く声も哀しき鵯の卑しき鳥と唯が名付けしや　　辻　千恵子　（宇佐市）

年明けて心も体も生きていけ新らしき歩み始めなり　　藤川　マスヨ　（臼杵市）

誘われしレコードギャラリー穏やかな山あいの町の春の音聴く　　矢川　安都子　（佐伯市）

倹しくも家族揃いし昼餉の味今日は一人のタカナチャーハン　　武石　辰子　（日田市）

旅立ちし友の思出あまたあり我が心に生くいついつまでも　　渡邉　晃子　（日田市）

夫看呉る眼差しやさし介護師さんマスクが下の面想いみる　　小松　和子　（杵築市）

見来会苦心の鯉が泳ぐダム子育の祈り今に受け継ぐ　　英　心　（国東市）

新年の野仏のエプロンあらたまり絵柄の金魚の赤あざらけし　　繁里　泰世　（大分市）

ただひとつ豊かな命ある星にヒト限りなく戦つづくる　　古田　恵美子　（津久見市）

早生の赤を好みし友垣の墓石を囲み彼岸花盛る　　廣田　千代子　（佐伯市）

縁側に座りし見れば庭の木々大寒の中たえて春待つ　　日髙　美智子　（大分市）

戦後八十年わが九十歳を過ぎたるも変ることなし粗衣と粗食と　　藤野　和子　（日出町）

四カ国語アナウンス流る名鉄名駅発ちてニチニン夜の無人駅　神田　隆子　（佐伯市）

佳作

夜なべしてコトコト煮豆のガラス窓母に見紛う私が映る　佐藤　惠子　（大分市）

佳作

半世紀前に封じし淡き恋平静保つ同窓会の朝　是永　修身　（宇佐市）

オリーブの実生の双葉開きくる十五年後の実り豊かに　衛藤　日出子　（竹田市）

佳作

果たせない約束ばかりを老父とするもう東京へは行けないけれど　田口　玲子　（大分市）

気に入りし鳩時計なるに近頃は気ままに打つも居間の柱に　安達　八重子　（日田市）

割礼（かつれい）は風吹き抜ける散髪やチュニジアの国ジャカランタ咲く　本山　満理子　（臼杵市）

孫の胃ねじれて生まれ満1才胃瘻チューブもいっしょに笑ってる　狩生　カヨ子　（佐伯市）

独り居の背にかけくれし一錠は心の薬ふり帰り笑む　溝部　清子　（国東市）

遷座せし里の宮居の森見えて自づと裡に手を合すなり　松田　君子　（大分市）

病床の白衣膝つき微笑むや病は気から薬餌より効く　若林　輝明　（大分市）

よちよちと子に手をひかれ診察へ歩く姿に老老介護　小河　三枝子　（佐伯市）

佳作

わが名呼ぶやさしい声を聞く夜更け諍いしまま逝きたる父の　中田　完子（大分市）

外に出て多くの人と交わりて語るも楽し生き甲斐感ず　山本　美保子（佐伯市）

湯気のたつ汁一杯受けし能登の人「ありがとうしあわせー」　佐藤　信子（由布市）

風光る下校の子等の弾む声ジャンケンポンと駆けて行きたり　春香（大分市）

睦まじき姥と男子が連れ立つは歩みもそろふ冬日和なり　倉原　安弘（豊後大野市）

亡き母の半纏着れば温もりと面影偲ぶ今日七回忌　佐藤　六代（竹田市）

通り道休耕田があちこちと昭和の時代作りし人を　穴井　政枝（日田市）

佳作

百本の湯けむり立たせ百年の市制を祝ふ春の風吹く　たに　たかし（別府市）

冬空は更に低く垂れ込めん夏より母が住みしなるやな　紅舟（日出町）

雪中花粉引きの花びんでテーブルに矯めつ眇めつ香を楽しみぬ　波多野　秀子（豊後大野市）

結ばれて六十年間過ぎてきて二人長生き老夫婦かな　時枝　学（由布市）

椎茸の活着出来ぬ原木で桜の若木囲みてありき　佐野　幸子（佐伯市）

目覚ましを半刻まへに掛くる癖あと半刻のまどろみが好き　河室　薫　（大分市）

朝食後指定の薬を三つ飲み一つ予定をクリアする日々　狩生　一生　（佐伯市）

老いし我趣味の短歌を学びつつ認知機能の低下を防ぐ　稲葉　信弘　（大分市）

石仏の頭に留まり鳩つがい蓮の花風にゆられてフラダンス　三浦　美智子　（臼杵市）

陽がささぬ台所なれど今朝はほら妻の淹れたる珈琲の香満ちて　村尾　宏　（日出町）

庭さきのメジロのダンス孫に似て楽しからずや陽の香る朝　森田　郁朗（いくろう）　（日出町）

赤子われ遺し父逝き八十六年巳年一月養父五十回忌　吉岡　早苗　（佐伯市）

どこからか淋しがりやの集まりて桜の下に座りて笑う　長野　美智子　（中津市）

病床の母の思ひを知らせむと秋風冷たし我身吹き貫く　丸山　礼子　（大分市）

赤い実を小鳥ついばみ南天は生花ならず寒風の庭　大久保　節子　（竹田市）

雲間から時折のぞく陽のように兄が玉葱ぶらさげて来る　藤井　妙子　（大分市）

同胞の四人は老いてそれぞれに知らぬままなるその暮しぶり　首藤　加代　（大分市）

佳作　佳作　佳作

幼きは悪ガキだった弟は六十年過ぎ盆の経読む　後藤　恵（臼杵市）

阿蘇山の外輪山の中にゐる久悠の刻に思い馳せつつ　奥野　弥生（佐伯市）

キャップして出番を待ちし鉛筆の主なきしを知らないままに　廣瀬　千代子（臼杵市）

「なぜ生きる」そのタイトルに目を引かれ読みたくなった一冊の本　久原　弓子（臼杵市）

ろう梅のつぼみがふくらむ霜の朝学童達が元気に登校　平川　ケサ子（臼杵市）

手繰り寄せ昔を語る顔顔に「今が幸せ」と喜寿同級会　竹永　葉麻（臼杵市）

初霜の寒さの中の葉げいとうぐったりするも紅色のこす　伊東　美代子（臼杵市）

弟の引っ越し祝いに集まりて柱の傷を数えてまわる　吉田　幸子（ゆきこ）（臼杵市）

吾は栗を吾子はぶどうを買うて来て夜に並べるそれぞれの旅　矢野　留美子（臼杵市）

兄妹の母と興じた歌留多とりそれぞれの今短歌や俳句　吉田　陽子（臼杵市）

コスモスに北に嫁ぎし子を思ふ日暮れの早き室蘭の秋　篠田　輝一（きいち）（津久見市）

水仙の花咲くころは祖父想う菜の花束ねて遊んだ幼き日　堀内　隆子（大分市）

特選

黄に染まり赤に染まりてゆうゆうと我が人生の老いを楽しむ　林　豊海（大分市）

水仙花空き家通りに咲きほこる人がいないぞと泣き叫ぶ　長谷尾　哲（大分市）

亡き母に逢いたくば鏡見よという偶話に鏡の自分見つむる　清原　アヤ子（宇佐市）

夕焼けに桜の落葉チラチラと風に吹かれて舞踊る　廣瀬　波子（大分市）

霊山を歩いているとひがん花すすきで秋を感じつつ　直野　春巳（大分市）

右側に孫左側にも孫両手をささえられ歩く稲穂の散歩道　佐藤　京二（大分市）

コスモスに柿うれて秋たけなわ日も高く照りにけり　松伊　芳恵（大分市）

サクサクと足音高くふみしめる早くこいこい秋の色　奥野　恵津子（大分市）

週三日グランドゴルフはつらつと切磋琢磨で楽しむ余生　三浦　千秋（豊後大野市）

六歳児記憶に残る空の旅いついつまでも思い出ぶかく　栗林　典子（杵築市）

月一度会話しながら集会医お薬のみでつながる絆　麻生　孝久（由布市）

奨励賞（女性最高齢者・九十六歳）※

奨励賞（男性最高齢者・九十七歳）※

※令和七年四月一日時点の満年齢です。

短歌漫遊

余生の一日

つひにゆく道とはかねて聞きしかど昨日今日とは思はざりしを

在原（ありはらの） 業平（なりひら）

〝最後は誰もがゆく死出の道だとは聞いていたが、まさか私が昨日今日にさし迫っているとは思わなかったなあ〟

老ふかみ明日を輝く日にせむと甲子園まで応援に行く

T 子

〝老も深まったので明日を輝く日にしたいと思って甲子園まで母校の応援に行くのです。〟

死は背後からふいにやって来る。だからこそ余生は一日一日をかがやかせたい。

大分県歌人クラブ　山本 和可子

日本語は表記文字のない時代から口承文化（のちに口承文芸）が広まり、神話・伝説・昔話・民謡（特に甚句＝七七七五調）が歯切れよく伝承されて、中国から伝わった漢字を当てはめて和歌（長歌・旋頭歌…）がリズムよく発展し、（五七五七七＝三十一文字）が主流の万葉集などの歴史を経て、平仮名・片仮名が発明され、普及し現在の美しい日本語文化に繋がり、抒情豊かに継承して来ている。幽玄余情の短歌は日本人の誇る詩文化である。技術的にはオノマトペや倒置法、句切れなどで印象づける。

大分県歌人クラブ　太田　宅美

「大分県歌人クラブの紹介」《会長 山田義空》

昭和36年（1961年）創立の大分県歌人クラブは、本年10月に、64周年となります。

歌人クラブの目的は当初より「会員相互の交流と研鑽を深め、県歌壇の振興に寄与する」ことにあり、クラブの主催・後援・協力事業のすべてについて広く門戸を開放し、他府県の歌人団体との情報交換などを図りながら下記の事業を実施していますが、IC時代の到来による生涯学習の多様化から、会員の減少が続いていることに加え、コロナ禍の生活や、ロシア軍のウクライナ侵攻、イスラエルとパレスチナの戦争や生活環境の変化など、歌材は多いが、若い世代の会員が少なく、近い将来、県歌壇の衰退を招くのではないかとの強い危慎を抱いています。

短歌は、５・７・５・７・７の形式さえ守れば、何をどう詠んでもよく、巧拙を超えてすべて短歌です。友人や知己に、古きよき時代と言われる頃の思い出や、現在の境遇・人生観などを、生きた証しとして短歌（うた）にするようお勧め願います。

◎活動の柱

１）広報関係……大分県歌人クラブ会報の刊行（年３回）

２）歌会関係……主催、共催、後援、協力の短歌大会。

３）庶務会計関係…入退会に関する事務ほか。

※年会費　2,000円。入会に関する問い合わせは下記へ。

連絡先　〒870－0261
大分市志村２－３－19　田口玲子
TEL 090－5722－6106

俳句の部

審査協力　大分県俳句連盟

	応 募 者 数	作　品　数
俳　　句	（人） ４３３	（点） ７８８

俳句全体評

今年は昨年より応募が多く四三二人から七八八句を頂きました。

一句一句に心が籠り素晴しい句でした。野に遊び自然を詠む、夫婦や家族の仕草、様子に行事。これまで生きてきた事、今の事、先の事。ねんりんピックらしい句が見られました。作品の中にはもう一押しという句もありました。それで、作った句を見直すこと、推敲することをお勧めします。より高みの句になります。これからも元気に未来を見つめて、句作に励んでください。

大分県俳句連盟
会長　吉原　白天

吉原　白天　選

特　選

白寿なる母のえくぼや初鏡

岸川　房子（杵築市）

〈評〉鏡に映っている母の顔がほほ笑ましい。九十九歳の母はどんな思いで、正月早々、鏡を見ているのだろう。後一年で百歳。これから先の事を聞いているのかも知れない。想像を拡げ、簡潔で奥の深い句になっている。

入　選

群青の湾に映えいる鰯雲　　**蛯原　テルヨ（別府市）**

〈評〉群青色の海に鰯雲、青と白の対比、素晴らしい湾の風景が浮かんでくる句です。鰯雲という季語が海と相俟った良句となっています。

入　選

初日の出堅く結ばる夫婦岩　　**松村　勝美（由布市）**

〈評〉岩と岩に渡した注連縄に太陽が昇って来る光景です。堅く結ばれるは人と人の絆です。初日の出を用いた実に縁起の良い良句です。

入　選

集落の沈む湖面に浮くもみじ　　**長野　美智子（中津市）**

〈評〉ダムを造る関係か何かで里は沈みました。今は湖になって、もみじが浮いています。なんとも言い難い気持ちの伝わる良句です。

阿部　王一　選

特　選

世の端に生きて米寿の初湯かな

小田　祥子（大分市）

〈評〉自分の人生の主人公は、誰もが自分自身である。それでも、世の端に生きて、と中心ではないことを客観視している作者。めまぐるしく変化した昭和を生きぬき、今年は戦後八十年の節目。初湯につかりながらの回想。

入　選

長老の喝で和解のちゃんちゃんこ　　後藤　勝利（豊後大野市）

〈評〉些細なことから始まった口論。互いの思いを存分に伝えあった挙げ句の場面であろう。長老の存在感ここにあり、という一句。

入　選

大鯉の顔に傷あと冬深し　　下田　明美（豊後大野市）

〈評〉水底でじっと動かぬ大鯉。よく見ると顔に傷がある。長生きすればいろいろなことを経験するもの。それは鯉も人間も同じ。

入　選

辞書を手に孫に文書く夜長かな　　糸永　ケサヨ（国東市）

〈評〉電話やメールなど、通信手段はさまざまあるが、大切なことはやはり手紙で伝えたい。言葉の意味を確かめながらしたためる手紙。

中尾　豊子　選

特　選

初春や紀元ひもとく宇佐の宮

衛藤　博幸（宇佐市）

〈評〉全国八幡社の総本宮である宇佐神宮は、今年御鎮座１３００年を迎えた。作者は改めてその歴史に思いを馳せている。「初春」の季語がめでたさを重ねる。多くの人々に支えられて歴史ある文化遺産は未来へとつながれていく。

入　選

夏来る鍛へあげたるふくらはぎ　　衛藤　日出子（竹田市）

〈評〉脹脛（ふくらはぎ）は第二の心臓と言われる。「夏来たる」と断定して、酷暑に立ち向かう心意気を表している。この夏もこの脹脛（ふくらはぎ）があれば大丈夫。

入　選

小鳥くる老の暮しもやや多忙　　諫山　真砂子（大分市）

〈評〉程々の忙しさは自ずと体を動かし人との交流も多くなる。これこそ健康長寿の秘訣。「小鳥来る」の明るい季語に軽快な活躍を想像する。

入　選

ウインクの夫のよこぎる初鏡　　湖　人（津久見市）

〈評〉なんとも微笑ましい情景。鏡を横切った夫に焦点を当てた所に俳味の妙あり。ウインクは何のサインか気になるが詮索は止めておこう。

雨おもき背戸の日昏や蕗の花
葱坊主山また山の農二軒
ていとく　（杵築市）

猪鍋や即身仏の山の里
アルバムによき日々のあり小鳥来る
藤澤　淑江　（臼杵市）

肩をもむ子の指ぬくし春ぬくし
枯枝に烏影おき冷え返える
森　添子　（竹田市）

年明くる一会の句座に心寄す
峡の村十戸にみたぬ星月夜
永田　豊子　（宇佐市）

白波は遠くに置きてもやい船
冬空に負けてなるかと海の青
淑　子　（豊後高田市）

彼岸花咲く道続くイモリ谷
紅葉をたずねてバスは耶馬の路
井福　ツヤ子　（宇佐市）

父の座すいろりを囲むだんご汁
霜囲ひ二輪の花のけなげかな
渡辺　セイ子　（大分市）

九十代四姉妹揃って年を越す
年取や揃ふ四姉妹九十代
荘田　泰代　（臼杵市）

佳作

二人して生きるよろこび七草粥
夫婦杉仰ぐ時雨の石畳
和田　こうせい　（大分市）

まるまると自分が好きにシクラメン
おめでたき物のひとつに仏の座
油布　晃　（竹田市）

佳作

八十路すぎ真っ赤なくつで初詣で
初詣で急な階段登りきり
日名子　隆　（大分市）

立冬の温泉街を歩く朝
光る路クリスマスの森の歌
原田　洋治郎（豊後大野市）

冬茜ツワブキ咲ける散歩道
秋祭ゴジラ出現藁案山子
樋口　繁子　（杵築市）

紅灯や漫廻りの角を打つ
母影笑む夕諷経に燭援れぬ
端　鳥　（国東市）

秋風にグランドゴルフ玉転ぶ
リュウマチの苦痛癒えざる秋しぐれ
市川　松代　（佐伯市）

梅香る古木の花に貫禄や
孫娘振り袖姿に大人の香
大神　愛子（豊後大野市）

病室に木枯らし泣いて季節知る
あかぎれにワセリン塗り込む母の意地
岩尾　邦昭　（大分市）

川面に写す大花火宝石似（じ）
夏風にチケット見せるすまし顔
嶋末　洋子　（大分市）

父と母会話している夏の月
図書館で本の隙間に蝉の声
足立　鶴男　（大分市）

宿帳に本名を記し雪女
広戸　秋義　（津久見市）

寒詣りいただく粥のうまさかな
鳥山　康雄　（大分市）

再会の声裏返る初つばめ
整列は学びの姿勢初つばめ
阿部　正調　（大分市）

肩車父といた夏忘れない
お面買う鬼灯市や父と行き
つわぶき花　（津久見市）

七十路のセータ真つ赤に余生あり
三毛猫がぶちより強し置炬燵
西方（にしかた）　浄子（きよし）　（大分市）

ひこばえに実をつけたるや梅三個
酌み交わす傘寿の屠蘇の酔い心地
近藤　範子（豊後高田市）

桐一葉落ちて施設の一ト日暮れ
山頂のダイヤモンドのお年玉
末松　聖枝（宇佐市）

紅葉燃ゆ我が人生の指定席
人生の仕上げ万歳紅葉山
中島　尚之（国東市）

新築の屋根に初雪光りをる
群れ蜻蛉低空のオスプレイ二機
畑本　しず子（玖珠町）

山なべて風を遊ばす紅葉路
老いて尚手芸に生きる冬茜
時松　秀子（玖珠町）

道の端になほ凜として落椿
振り向かず歩むと決めて枯野道
井手　俊郎（国東市）

去年今年ひとつのことを懸命に
おほあくびパパ吾子抱くや冬ぬくし
山中　イフ子（大分市）

老鶯やいくとせ鍬を打ち続け
影見えず声下りて来る霧の山
健皚（けんがい）（臼杵市）

沢あんを噛む音愉し昼下がり
蝋梅の香に誘はれし二人かな
豊岡　晃瑢（由布市）

就職を決めてのびのび年新た
枇杷の花屋号ゆかしき里の家
豊岡　陽子（由布市）

桜咲く人生更に米寿かな
赤とんぼ肩に止まって遊ぼうよ
豊　月（佐伯市）

春を待つ球児青春真っ盛り
夕焼けや戦後昭和の赤ポスト
神徳　和雄（津久見市）

飛ぶ鶸のつばさは萌黄春近し
夜も更けて流氷軋む音立てて
大分市　みやび　（大分市）

生かされて生きる喜び大旦
群青の湾に映えいる鰯雲
蛯原　テルヨ　（別府市）

人選

ヒゴタイにノーベル平和賞誓うもの
アマリリス株分けの君咲いたかな
佐藤　文人　（由布市）

光満つ能楽堂の淑気かな
ふんはりと賽銭投げて初詣
入学　ひさみ　（宇佐市）

輝きてこぼれるほどに実千両
病室の遠く漁火冬の海
安藤　幸枝　（豊後高田市）

我思うゆゑに祈れり枯れすすき
裸木の動かぬ鷺よ山眠る
翡翠　（宇佐市）

佳作

白杖や付かず離れず赤蜻蛉
自転車を磨く勤労感謝の日
岩瀬　恵子　（大分市）

佳作

ほどほどに生きて卒寿や梅の花
よろこびを待つ朝顔の種を蒔く
翠明　（佐伯市）

咲かせたり宇宙朝顔老九人
五月晴れ遠く客船鮮膳
穴井　和子　（玖珠町）

現役を去る如月の誕生日
幾つまで交換するや年賀状
智恵子　（大分市）

四世代揃って迎えるお正月
過疎の村一人暮らしの雑煮かな
撫子　（国東市）

注連を綯ふ手の向きぴたり親子かな
大熊手求めし夫の足軽く
重岡　尚子　（宇佐市）

落葉舞ふ空より便りあるごとく
半世紀ぶりの土佐路や小春凪
牧　恵美子　（大分市）

秋時雨木道の歩荷消えゆく
葬列の遺影は抱かれ秋時雨
はぐれ雲　（中津市）

白寿まで生き抜くつもり白芒
新海苔の醤油いつてき海香る
松本　己代子　（中津市）

七度の干支や気合の初暦
猫もをり老いの茶話日向ぼこ
都留　ナミ子　（宇佐市）

日を浴びてちょるちょる体操顎マスク
次々と親離れするシャボン玉
岡野　しずこ　（国東市）

末っ子の進路煮つまる二月尽
帰省子やスマホ三昧対話なし
浜崎　千六　（国東市）

紅葉の木野鳥巣をかけ雛孵る
旧根も寒さに絶えて春を待つ
矢野　節子　（大分市）

入選

初日の出堅く結ばる夫婦岩
年新た席をゆづられ老い悟る
松村　勝美　（由布市）

暁や松青々し春の磯
指おりて七草尋ね峡の道
中鶴　政子　（佐伯市）

元朝の豊後水道黄金波
立春の風の伴走人力車
紅　洞　（大分市）

雪が舞うストーブの上の餅ひとつ
岡田　真知子　（国東市）

新玉に生きる道変へ模索する
元日を四代揃い膳囲む
麻生　君子　（由布市）

寒の雨色のにじみて街明かり
ゆつくりとくすりの効いて夜具の中
柴田　つぶあん　（佐伯市）

陽春や姉弟五人揃ふ郷
春の宵五百羅漢も宴かな
藤川　ふじ子　（由布市）

部屋内へ初日静かに暖をなす
土塊を握りて誓う年始
高橋　和美（豊後高田市）

愛とムチ箱根駅伝胸を打つ
三が日社に灯る田舎宮
井上　のり子　（中津市）

枯尾花風もないのに招きいる
水仙の白際立てる丘に立つ
工藤　翠　（大分市）

音ひとつ跳ねて椎の実地に眠る
秋天を見つめ未完の木彫り鷹
三松　杜窓　（日田市）

半世紀ひたすら手書き年賀状
独り居の庭明るくし寒椿
れっこ　（佐伯市）

去年今年年去り年に古稀の朝
こぼれ日に野に咲く花に冬の虹
阿部　修二　（杵築市）

子を待ちて餅焼きており昼日中
川野　登喜恵　（国東市）

小児科の今日はお休み燕の子
帰農子の地下足袋光る田打かな
加藤　賢二（豊後大野市）

佳作　佳作

諦めぬ夢を竹刀に初稽古
胎動の曽孫も一人お年玉
後藤　正人　（大分市）

猫の背も日々新なり日向ぼこ
秋刀魚焼く煙も昔世の移り
大下　昭子　（大分市）

寒柝の車の過ぎて戻り来る
寒菊のおしくらまんじゅうしてをりぬ
小野　蒼水　（由布市）

ちゃん付けで呼び合ふ仲間冬日和
伴天連の古き墓石枇杷の花
小野　瑞季　（由布市）

初暦めくる卒寿の運命（さだめ）かな
てのひらの生命線や亀鳴けり
藤原　啓司　（大分市）

暖かや結びて開くやや子の手
窓開けて肌で感ずる冬花火
吉弘　好孝　（別府市）

大股に来し冬将軍出征碑
魂を揺さぶるオペラ淑気満つ
藤井　隆幸　（日田市）

佳作

元日の朝刊ずしり夜の明くる
書初や父の筆借り標（しるべ）書く
安達　郁雄　（国東市）

野遊びやおむすび転び児も転び
吹き降りの側溝ふさぐぬれ落葉
安達　恵子　（国東市）

北風に押し戻されて杖を打つ
枯芒少し声かけ通り過ぐ
松原　幹夫　（由布市）

秋うらら百歳迎え嬉しけり
百歳を子供と祝ふお正月
加藤　和女　（由布市）

空晴れてコスモスゆるる風の道
早起きや得する眺め虹の橋
佐藤　澄子　（由布市）

月山に眠る愛犬冬の雨
ツバメの子巣から二羽落ち抱きあぐる
安部　トメ子　（由布市）

お盆来て孫集まりて大はしゃぎ
さるすべり剪定早く叱らるる
後藤　百代　（由布市）

冬陽差し影が絵になる散歩道
秋探し体ぬくもる団子汁
松村　ナツ子　（由布市）

お正月着物着る夢見る私
お手玉を母作りしや雪降る日
工藤　ヨシコ　（由布市）

百合の花きれいに咲いた庭の隅
孫たちが卒寿祝いを冬の夜
佐藤　ツヤ子　（由布市）

命あることに感謝や夕涼み
懐かしの友と出会いし夏終わる
田松　ヒサコ　（由布市）

稲刈りや今年最後となりにけり
大空に大輪の花花火かな
田松　妙子　（由布市）

秋空をはばたく鳥みて憧れる
平林　彌生　（大分市）

友達と会って話すやバラの花
秋の朝今日も元気にケアへ行く
多賀　八千代　（由布市）

よしやろう支援の声や神無月
冬の星夜空にただよう恋の歌
花夢子　（由布市）

トロフィーを掲げ歓喜のロスの秋
ローゼルの花が一つに三つ四つ
野上　知子　（由布市）

目覚めたら飛んでる私秋の蝶
霜降りたそんな話しをしています
久美子　（由布市）

バスケする孫すくすくと十二月
冬の朝ガラス結露で黒板に
髙﨑　桂子　（由布市）

夏の朝元気にリハへ出発す
木枯らしや一日吹きてどうしよう
平野　鎮子　（由布市）

三人でコキア咲く道歩きけり
冬日差し少し暖かデイケアへ
藤井　文子　（由布市）

風吹くや庭の南天見えかくれ
田辺　ミユキ　（由布市）

秋の風ケアで片づけ私かな
安部　芳昭　（由布市）

お盆前私パーマに行きました
佐藤　小菊　（由布市）

菊薫る百歳目指し押し車
貞岡　フサ子　（由布市）

我が庭に鶏頭一輪咲きにけり
斉藤　あけみ　（由布市）

稲刈るやコンバイン乗る二人かな
工藤　愼一　（由布市）

一年ごとに縁うすれし年賀状
朝日からきらきら優し光る雪
沖ゆう　（大分市）

オープンカー風に吹かれてひとり旅
枯れ葉散る秋の風になすがまま
冨田　正子　（大分市）

凩や沈む夕陽を追いかける
春寒し色鉛筆のまるき角
田中　英俊　（宇佐市）

新刊の香りを抱いて師走町
今を生き小さき星や養花天
早澤　まり子　（大分市）

頬づえの夜の静寂や遠蛙
食べ頃を見抜くからすの枇杷談議
吉田　紫紅　（別府市）

マフラーに小顔を埋めし地蔵様
寒北斗塔を貫く心柱
友永　美保子　（大分市）

天高し八十路の夫のテキ二枚
夏霞涙もろさも母に似て
新名 ともこ　（大分市）

徒し世の夢ふくらます初詣
冬菜買ふバイリンガルの二青年
佐野　弘一　（大分市）

梅見に行く話間のある老いふたり
黄水仙妣かと追ひし押し車
森末　律子　（大分市）

境内の光の中の里神楽
一月の日に二月の陽まじりけり
房前 和加子　（大分市）

初春や昭和の歌手の深夜便
手に牌をシルバー教室春の午後
吉田　伸子　（中津市）

みどり児の笑顔と届く柏餅
日めくりに明日の予定種選
加藤　京子（豊後大野市）

週一の笑顔絶えないデイーサービス
畑仕事思い半分椅子の上
穴見　ヒデ子（豊後大野市）

ボーナスや夢がふくらむ二人して
初春やひい孫抱いて顔ゆるむ
倉原　ミチヱ（豊後大野市）

良きことも悪きも事効花ふぶき
種袋振つて未来の声を聞き
御手洗　金重　（佐伯市）

腕ずもう負けてはやらぬ空高し
背のびしてなぞれば消ゆる秋の虹
み　月　（大分市）

捨てられしマスク持ち上げ霜柱
三ヶ月の凍りついたり山の池
河野　武司　（大分市）

半分こしてたい焼の湯気二つ
寒卵男にもある更年期
松本　みゆき　（大分市）

里訛村のふくるるお正月
去年今年祈るほかなし平和かな
古川　みつよ　（津久見市）

北風やおしくらまんじゅうした昔
無造作に夫の活けたるホトトギス
遠入　和子　（中津市）

ウインクの夫のよこぎる初鏡
幸を形にしては毛糸編む
湖人（こと）　（津久見市）

つまやかな老いの見過ぎや北塞ぐ
新刊の帯よりまづは読みはじむ
花本　公明　（大分市）

稲作は今年で最後初夏の風
共に老い最期の稲刈るコンバイン
河野　敏夫　（国東市）

曇りつつ寒空増して猿だんご
静けさや谷に満ち満ち冬木の芽
長野　明美　（臼杵市）

人選

渾渾と古郷大池（おいけ）秋日和
雲海の晴れて由布院初目覚
桑原　繁夫　（由布市）

四方の春成功讃へ二人酒
万歩計木の葉に追はれ庭めぐる
井上　睦子　（日田市）

赤を喰い紅に染まった夏の旅
初雪や乱れて嬉し窓の外
子々　（日出町）

鉢植のくちなしの香を風上に
朝焼や地元漁師の露天市
大塚　雅子　（臼杵市）

あの日からずっと変らぬ娘の愛
主婦の座も令和と共に変りつつ
古城　千佐子　（国東市）

梅の香や七十年を連れ添いて
辞書を手に孫に文書く夜長かな
糸永　ケサヨ　（国東市）

人選

くり返へし書いた三文字日記果つ
初詣パパが迷子と尋ねる子
弘　枝　（豊後高田市）

稲雀令和を絶滅危惧種にと
椎茸の駒打つ山や尉鶲（じょうびたき）
久住農人　（竹田市）

入選

夏来る鍛へあげたるふくらはぎ
列島にましろき花や夏は来ぬ
衛藤　日出子　（竹田市）

どれ一つ同じ色なし柿紅葉
初雪や椿の花に吸われけり
春　水　（別府市）

佳作

早朝の羽織る身仕度寒四郎
山間の小さき水音山眠る
阿部　敬雄　（由布市）

野仏に心あずけて日向ぼこ
たんぽぽが隙間を埋める無人駅
後藤　洋子　（豊後大野市）

台風一過顔をつるんと青い空
鯉のぼり晴れて連休疲れかな
藤本　安久　（日出町）

襟元に母の香ほのか春袷（あはせ）
寒中の別れ儚き家族葬
真喜子　（由布市）

うら山の湧き水枯れて父母思ふ
孫の足日増しに早く我れ遅く
小野　文子　（由布市）

晴天の不通の友より来た賀状
清原　くるみ　（杵築市）

佳作

ひとり来てまたひとり来て日向ぼこ
子等の声消へて廃校白い冬
映　美　（豊後大野市）

核なき世ノーベルも知る平和祭
昭和百年湯けむりおどる観桜
内藤　幸一郎　（由布市）

農泊の主自慢の濁り酒
ふる里を詰めて三日目帰りけり
佐藤　一男　（大分市）

川鮎と猪肉交換御歳暮で
由布岳も阿蘇も尺間も我ふるさと
柴田　カヨ子　（佐伯市）

忙しき余生と成りて石蓴（あをさ）汁
大根引く味も思ひも子に送る
小山　佐知子（豊後大野市）

もう少し生きてみようと摘む若菜
初恋は遠くに置きて冬椿
西田　悦子　（日出町）

平等に初日のありて清々し
冬晴や吸ふ息吐く息空青し
香　奈　（大分市）

金婚式賞状胸に菊の花
由布院や保養地温泉冬の夜
是永　初代　（由布市）

北風に耐えてこらえて花一輪
もの言わぬ君と食する越（くれ）のそば
河野　光子　（杵築市）

焼鳥や強火弱火を使ひ分け
鮎釣りや左手に受け魚籠に入る
平山　正信　（日出町）

春の雪こころの襞を濡らしけり
天地眼不動明王春を呼ぶ
吾亦紅　（国東市）

佳作

つぶやきが一句となりて冬ぬくし
庭石に忘れし軍手霜の花
小倉　英司（ひでし）（豊後大野市）

新しき余生始まる初明り
人生に張りある暮らし去年今年
佐藤　豊治　（由布市）

佳作

ネイルして昭和を歌う敬老日
しみじみと白粥に割る寒卵
矢川　美枝子　（大分市）

小春日や介護を受くる「あいうえお」
読初や水彩画入り「駅エッセイ」
小関　弘美　（日田市）

地震鎮む火の男の神に寒詣
鎮もれる社殿の奥に笹鳴けり
大波多　美妃（豊後高田市）

ホバーゆく前途多難の冬の海
能登想ふテレビの前の冬籠
白野　里美　（由布市）

日記買ふ米寿の夢を疑わず
身の丈の幸せで良し初詣
小関　敬子　（日田市）

皿山の陶土を叩き初しぐれ
秋高しダム湖に浮ぶ杉丸太
武内　政行　（日田市）

寒風に店の暖簾に風舞いて
寒風を真面に受けて日の出みる
後藤　和子　（日田市）

佳作

おそざくら生家の始終知りつくし
凹凸の道きて平ら老いの春
神　冬子　（別府市）

山笑ふ九十歳の同窓会
輝いていた日もあった枯蟷螂
翠　（由布市）

無事願いセニヤカーにて初詣で
山の端に光射し出る初日の出
清　柳　（竹田市）

佳作

酔ひ酔めの水旨き夜やシクラメン
山深くインバウンドや紙を漉く
晋　二　（大分市）

臘梅の漂う小道足をとめ
酒呑まず忘年会は足の傷
岩田　司易　（由布市）

裁着の朱の色が舞ふ初社
往還の車列途切れず除夜詣
吉武　康子　（宇佐市）

シルバーカー並ぶ公園せみしぐれ
客も押す木炭バスや坂は冬
あやか　（豊後高田市）

諍いの続きし星や霾日（つちふるひ）
着膨れを吐き出すバスや過疎の村
明峰　（豊後高田市）

夏草に隠れて寂し放置墓
銀杏散るアートのような庭眩し
国本　紘司（豊後高田市）

歩行無理神社参拝夫の腕
亡き父母へ多き子育て感謝のみ
髙畠　葉月　（大分市）

松よりの風を描きし屏風かな
水足して目高（めだか）の空を広くする
片岡　学　（別府市）

くずれ行く夫の背を抱く冬寒かな
明日あるを信じて三年日記買ふ
森山　文子　（日田市）

入選

さはやかや真似ごとながら太極拳
小鳥くる老の暮しもやや多忙
諫山　真砂子　（大分市）

穏やかな階下の顔に海碧し
柿熟れて短かき秋や鳶日和
丹渓　トヨ子　（大分市）

冬耕の媼一人の長き影
鬼柚子を両手に夫の笑顔かな
石井　明美　（津久見市）

着ぶくれておしゃれ心はどこへやら
八十路なりまだまだ往路雑煮食む
関　フジ子　（大分市）

手休めの母加はりし手毬唄
起き抜けのこゑ裏返るちゃんちゃんこ
佐藤　佳津　（津久見市）

年金日集ふ同期の秋のれん
二千歩の心静かに初景色
岩本　文子　（津久見市）

女正月心置きなく辞書めくる
余所行きの顔して夫の御慶かな
河野　二三華　（宇佐市）

寒潮のホーランエンヤ桂川
七草のしゃぶしゃぶ鍋やご長命
中野　武子（豊後高田市）

新築を次世代継ぐか過疎の冬
荒波のしぶき飲み込む七ツ釜
清末　美栄子（豊後高田市）

ドアノブが引く着膨れの割烹着
高口　たき子　（大分市）

配車して早や食積（くいつみ）の八十路ゆく
八十路ゆき赤ねこ様に初参り
麻生　初子　（津久見市）

野仏に一礼の子冬帽子
一筋の道を一途に寒稽古
遠見　百合子　（津久見市）

八年なる句友と睦む初句会
睦月尽介護疲れの友の愚痴
神野　礼子　（臼杵市）

由布岳の空くつきりと冬来る
空仰ぎ軽き歩みや里の秋
田口　正昭　（国東市）

裸木となりゆく大樹力満つ
偶数が好き寒鴉まだ一羽
吉武　千束　（中津市）

老ゆるとも日々の闘志や初御空
女正月湯気ほのぼのと茶碗蒸
後藤　幸子　（竹田市）

粕汁のアツアツ一椀ごちそうに
北国の雪のおもさを思いやり
石井　紀久子（豊後高田市）

人いきれ覚悟の上の初詣
二人傘汝（な）の肩濡らす春の雨
瑠璃　（宇佐市）

時雨るるや心も傘の欲しき夜
御鎮座の初春宮の人いきれ
後藤　明彦　（宇佐市）

気合ひ入れねぢり鉢巻き祭の子
秋風にひときは高き子等の声
生野　久　（別府市）

七人の地域サロンや日向ぼこ
賜りし傘寿を祝ふ初御空
芋岡　勝一　（臼杵市）

佳作

脳トレの計算漢字ねこじやらし
大晦日鎮守の宮を掃き清む
時枝　則子　（宇佐市）

佳作

寒禽の一声赤き実をこぼす
餅花にむかし明かりの色とくる
松本　公節　（宇佐市）

実万両弔辞に父の為人
我が村の国定忠治初芝居
吉賀　京子　（臼杵市）

佳作

不器用に生きて七十路去年今年
長生きを誓ふ姉妹の初電話
奥野　律子　（宇佐市）

佳作

せんべいをぱりつと噛んで冬日燦
眩しめり新成人の白ショール
南　女　（大分市）

年古りて桜散る様我もまた
佐藤　文次　（竹田市）

川の生ることも五月の草千里
ふり返るそこが故郷大夕焼
渡邊　しをに　（国東市）

存へしいのち愛しむ寒玉子
快晴の二字より始む初日記
多珂子　（別府市）

素つ気なく枯蟷螂に触れてみる
鼻唄はいつも童謡春を待つ
吉冨　敏子　（大分市）

蹴上げたる蒲団抜けだす老の朝
大声で言へぬこと聞く冬すみれ
是澤　勝行　（津久見市）

湧泉の底が褥の落葉かな
虹の端の架かる秘境の谷深し
小林　客愁（豊後大野市）

虫食ひの畑の大根切り干せり
手にやさし大根洗ふ井戸の水
藤本　和枝　（日田市）

佳作

廃屋は山と化し南天の赤
ここに在り空き家の塀越し黄梅落つ
曽宮　点　（佐伯市）

白梅の陽の色返すつぼみかな
臘梅や道を外れてしまひをり
望月　美住　（大分市）

茄子の苗親孝行という失語
時は春窓閉まりたるまま老いしまま
三重野　憲治　（宇佐市）

初御空安寧とわに祈りけり
何もなく安堵と書きて初日記
髙倉　芳江　（大分市）

お雑煮をせめて一椀戦下の子
寒北斗鞄に確と紹介状
米持　知子　（宇佐市）

さう急ぐ程のものなし老の春
鳶舞うて小春の空を深うせる
竹下　百合子　（大分市）

侘住いただぽつねんと除夜の鐘
春うらら妻の手を取り川の土手
藤延　秀則（豊後高田市）

老木の咲くやこの花冬ごもり
佐藤　久代　（竹田市）

真夜中の小さないびき霜の音
佐賀野　和義　（竹田市）

諍いはもう今朝のこと柚子を煮る
髪染めし妻と二人の良夜かな
伊藤　信一郎　（竹田市）

節約と倹約の日々去年今年
汁の中役目を終えし鏡もち
徳地　裕一　（国東市）

老二人孫に誘はれ冬の旅
山椒の実摘み取る郷の香りかな
佐藤　順子　（大分市）

佳作

虫の闇補聴器着けて酔う音色
烈日に一鍬入れるも命懸け
薬師寺　武信　（津久見市）

身の丈を知りて小坪に咲く椿
平凡と言へる幸せ暦果つ
斉藤　小夜子　（津久見市）

超リアル案山子一家がこちら向く
爺もまた粧(めか)したがるやクリスマス
松尾　菊恵　（大分市）

拾われぬ山栗愛らしく乾く
このままに片恋でよし古稀の春
小野　洋子　（佐伯市）

何時までも葉ボタン見事眼にとまる
梅の花古木なれど忘れじと
小島　伸子　（豊後大野市）

ひと掬ひしらおまけ呉れやさしき手
家居して寒さに処すといふ日かな
天領　杉太朗　（大分市）

春茜亡父の愛した昭和かな
杖ひとつ残るバス停雪明かり
内田　トヨ子　（九重町）

峡の里巳年の初日昇りけり
さる山の戸籍調査や年の暮
土屋　富　（由布市）

水仙やわれも負けずと白寿むかゆる
梅にきて遊べや親のない雀
風　二　（国東市）

老女なる我にエールを初鏡
黒豆や同じレシピの五十年
手嶋　信子　（国東市）

年越しのポインセチアがまだ赤い
三代　洋一　（大分市）

青春の君の笑顔や彼岸花
丹頂の一鳴き二鳴き白い声
佐保　泰子　（佐伯市）

一枝脱ぎクラブ振る腕春近し
囀りの中鶯いてか春間近
阿部　紀代香　（杵築市）

年新た輝け長き老いの道
デイケアに妻行く朝や梅真白
梅山　忠信　（日田市）

おひな様牛車でおこし日田往還
轟音の丸太のトラック青嵐
小浦　絹子　（日田市）

バリトンの地を這う二月のホールかな
陶という炎の勝負寒に入る
藤澤　紀美子　（大分市）

初参りしてこの街の住人（ひと）となる
カーテンを開けひと年の初御空
吉松　福子　（大分市）

里人は菊一輪を供へけり
わらぼっち一両電車の無人駅
岩尾　俊信　（大分市）

暖色の点描もみぢ山幾重
月光冴ゆ母の白髪に霑る姉
岡﨑　優子　（大分市）

初電話声色の似る三世代
末席に連ねて嬉し初句会
みえの　てんし　（大分市）

畑仕事手伝いたいの鵤鶏
大空やトンビがくるり神無月
中原　妙子　（日出町）

針落とすひとり霜夜のノクターン
女正月女系家族のあのねのね
後藤　みこ　（臼杵市）

仏壇の鐘二つ打つ親不幸
腹へってにぎり食う秋ガザの空
瀬口　信三　（大分市）

山茶花の一輪挿しや年金課
新しき湿布よく効く寒に入る
横山　八千代　（大分市）

月明かり蝋梅の花浮かびけり
蝋梅や蕾の彼方に由布の嶺
村上　伴一　（大分市）

八十八の薔薇に劣らぬ笑顔かな
一礼を以て終へたる初詣
堤　節子　（別府市）

省エネとストーブで煮る冬野菜
水仙はどんな花にも寄り添える
中村　洋子　（豊後大野市）

特選

世の端に生きて米寿の初湯かな
円といふ明るき未来鏡餅
小田　祥子　（大分市）

ばあちゃん家（ち）いいなあ炬燵っていいなあ
詫びながら飾る雛壇地震の母
加津代　（大分市）

一歩ずつ春の訪ずれ野の小道
山里の湯舟に浸りて友想う
温泉名人　（大分市）

大寒や温泉で蒸す籠野菜
冬銀河深夜ラジオの話芸かな
和田　慎一郎　（大分市）

ひ孫よりママの手伸びるお年玉
風強し電線ゆらす虎落笛
栗林　典子　（杵築市）

出郷や桜吹雪の無人駅
初日の出二見ヶ浦の大注連
財前　春子　（杵築市）

身辺に老の細波年新た
産声をもうすぐ聞ける松の内
甲斐　梶朗　（別府市）

雨だれの一筋光る春隣
二時を打つ柱時計や田水沸く
阿南　友信　（竹田市）

特選

初春や紀元ひもとく宇佐の宮
冤罪や柊の花白かりき
衛藤　博幸　（宇佐市）

豊後三山大寒の遠景色
脇道を来て寒梅にゆきあたる
木下　恕子　（大分市）

佳作

九十の齢大事に春を待つ
ゐのこづちそんなについてこられても
光成　えみ　（大分市）

如月の手術を決意厨隅
無農薬大根さげて闘士来る
森　明以子　（日田市）

大寒の天井知らずや物価高
ミサイルに鯨が騒ぐ日本海
畑　正彦　（日田市）

カボス採る好好爺にはほど遠し
内緒話聞いてるやうな炬燵猫
江口　俊作　（杵築市）

たんぽぽや光あふるる岡城址
鳶舞ふや畝真つ直ぐに麦青む
野中　安子　（大分市）

特選

白寿なる母のえくぼや初鏡
巡回のナースの笑顔去年今年
岸川　房子　（杵築市）

初弾は深夜（よる）の音消す忍びごま
待つ春や一見無駄を丁寧に
山田　あつみ　（大分市）

青頸や羽誇らしく先導す
寺門染め今日で仕舞と散紅葉
塩月　ひろ子　（大分市）

佳作

逆縁の子の分も撞く除夜の鐘
仏壇の父母と乾杯屠蘇ふふむ
大野　洋子　（玖珠町）

そっと置く夢みる寝顔クリスマス
どんど焼炎の色が頬に映え
井下　和範　（大分市）

豆捲くも拾うて食うも老二人
豆捲くも拾ふも二人仕舞(しも)た屋に
神屋　富美子　（大分市）

また一つ誰が撞いたか除夜の鐘
自生して今は大木枇杷の花
徳地　富好　（国東市）

元日や父の柏手響く朝
三日午後帰る息子とハイタッチ
髙村　容子　（日田市）

十五夜にまたねと笑い去る姿
誕生日家族とすごした秋の夜
岡村　温子　（大分市）

雪冠り山存在を主張せり
パチパチパチ竹が炸(はじ)けるどんど焼
黒豆(くろず)　久美子　（中津市）

まだ温し鹿狩の肉夕餉とす
木の肌を撫でて寒肥を遣りにけり
嶺　雪江　（豊後大野市）

俯いて帰える児抱むママのハグ
青虫よお前も無農薬しか食べないか
笑　美　（杵築市）

新春や卒寿の義母の背中(せな)を見る
独り居の君の声聴く初電話
和ゐ　由里　（宇佐市）

立ち話し蝋梅の香や時忘る
朽ち果てしベンチに一つ栗のいが
谷崎　弘子　（由布市）

一人居の男の料理龍の玉
道に憩ふ老いの買物冬すみれ
阿部　寿岳　（竹田市）

お正月初まごだけてにぎやかに
ホトトギスながめてうかぶ姉の顔
生野　富子　（大分市）

一世紀違う曽孫と日向ぼこ
孫の靴ネットで買ひて春を待つ
蒼　歩　（大分市）

二人してカートを押した十二月
亡き夫のペン持ち日記書き初める
徳永　榮子　（臼杵市）

月光や窓に映りし老の顔
朝刊の厚さずしりと年明くる
高橋　利光　（佐伯市）

侘助を活けてひねもすショパンかな
山茶花や隣へ続く猫の道
佐藤　和代　（大分市）

語らいも違へるめをと老の春
さんさんと萌黄たつ沢風は春
村岡　正文　（大分市）

餅つきや小柄な義母の大舞台
初鏡八十路すぐそこほほなでる
見良津　玲子　（大分市）

爽やかや百寿時代の健康法
百歳を語る講座や冬に入る
矢川　満信　（大分市）

節分にあの子の好きなイナリ炊く
蝋梅に待ちわびたと礼を言う
佐藤　惠子　（大分市）

春風やメメントモリをかみしめて
初茶湯（はつちゃのゆ）松風（しょうふう）聴くや小間静か
初　蓮　（宇佐市）

出迎へる人なき里の秋夕焼
この命土に還るやふきのたう
あつ子　（大分市）

還暦やこころときめく返り花
水の中鯉泳ぎけり二月尽
ジュン　（日田市）

一月や待合室の標語かな
算数の九九が言えますお年玉
あんな　（竹田市）

鳥帰る父が名付けし湖はろか
身に沁むや父の残せし蔵書印
松下　章子　（佐伯市）

クラサポの老い弾けとぶかるたとり
冬晴れや駅伝男子肩光る
吉良　アヤ子　（竹田市）

林檎箱夢に書棚に若き日よ
冬銀河ジャコメッティと酒を酌む
本山　満理子　（臼杵市）

目のちさう銀杏落葉のしぐれ時
ふつふつとシチューの香満ち外は雪
宮原　公子　（日田市）

ツワの葉で汲む水美味し山仕事
一人居を見廻るバイク野水仙
松田　君子　（大分市）

佳作

ヨタヨタでテニスそれでも青い空
好きだった仕草嫌いに赤いバラ
中田（なかだ）　完子（さだこ）　（大分市）

ろうばいの香をまといつつ孫来る
友の顔賀状じまいの筆おもし
水氣　貞子　（由布市）

佳作

煮凝や週に一度の休肝日
日向ぼこほつこり埴輪心地かな
今宮　嘉子　（大分市）

五月晴れあの日と同じ吾子命日
柚とりや顔にとげさす秋うらら
小河　三枝子　（佐伯市）

寒鳥チラと見ただけ飛びもせず
山茶花や木陰に咲きて緋色なり
波多野　秀子（豊後大野市）

新年を寿ぐ句会宇佐の宮
宇佐神宮拍手ひびけ年男
山田　幸雄　（宇佐市）

蓄音機のひびき百年淑気満つ
万両や掛り付け医はまだもたず
藤　まり　（日田市）

れんぎょうの花片添えらる郷の文
猫の背の花ひとひらよ里の朝
安部　和代　（大分市）

佳作

落葉焚ぎんなん爆ぜて子ら跳ねて
温泉の先客は柚子ぷかぷかと
馬場　里安　（大分市）

敬老日ラインに届くメッセージ
霜の朝逝きし友との約束よ
桒野　眞弓　（日田市）

冬オリオン二人いつしか仲なおり
砂むし湯こがらしさえもよしとする
廣田　理恵　（日田市）

夕焼けや共に見し日の母思う
伊林　貴久江　（臼杵市）

抽斗は子らのポケット春を待つ
風といふ扉を開けて春来たる
谷　風花　（別府市）

寒晴れや孫に手引かれ散歩道
ふるさとはない学び舎は枯野かな
精　善　（国東市）

畑の中土龍土掘りボコボコと
もみ殻をドラムカンにて燻炭に
穴井　政枝　（日田市）

佳作

リハビリの一歩一歩や春よ来い
声出してテレビ体操春隣
ひろこ　（宇佐市）

たわいなき昔話の桜餅
万緑や野太き声のおーいお茶
野々香　（大分市）

新しき登山帽子と待つ明日
初雷や教室の子等ざわめける
勝　子　（大分市）

廃屋やたわわに稔る柿さみし
足立たぬ我を見る妻冬の朝
加藤　清　（由布市）

出荷する出番ですよとシクラメン
御歳暮は一つ減らして送りけり
時枝　学　（由布市）

じょうびたきオスは気取ってモーニング
林　豊海　（大分市）

風邪の子とにらめっこして帰りけり
追伸は熊に用心寒見舞い
四浦　鳩　（津久見市）

冬ざれの道に一軒ラーメン屋
叶えたい夢二つ三つ初鏡
矢野　留美子　（臼杵市）

会ひに来てくれて有難う冬の夢
凍て月に「父ちゃん」とただ呼んでみる
奥野　弥生　（佐伯市）

入選

佳作

冬籠りラヂオを友の一夜かな
野に立てば吾も枯野のひとりかな
廣瀬　千代子　（臼杵市）

チャイム鳴る出かけようよと子供の日
見てますか十五夜ですよひとり言
森田　じゅん胡　（佐伯市）

お年玉年々減りし孫の数
寒卵売り場の棚で大人気
亀井　ゆかり　（臼杵市）

長老の喝で和解のちゃんちゃんこ
えび腰の母の自慢の冬帽子
後藤　勝利　（豊後大野市）

スイスより山の絵はがき秋惜しむ
寒卵卒寿の夫のかけご飯
桑原　ミヨカ　（佐伯市）

七草や夫の形見のお箸かな
大寒や後期高齢三姉妹
吉川　時美　（臼杵市）

秋深む女子（にょにん）の寝姿烏岳
竹宵の仄かなあかり秋が往く
後藤　恵　（臼杵市）

風走り落葉も走り子も走る
子ら褒る夏痩せの父はガンジー
森田　五百子　（大分市）

コーヒーに付く茹で玉子春隣
子等四人餅の焼けるを待つてをり
首藤　加代　（大分市）

ヘビやタコ巻きつくものは気味悪し
鼻の傷マスクがあるからまあいいか
狩生　一生　（佐伯市）

クリームの塗りすぎかもと初鏡
寒卵姉と妹の半分こ
吉川　さち子　（日出町）

春隣槌音響く厨窓
老弟の籠編む手先梅香る
藤井　隼子　（大分市）

報恩の道ひとすじや梅開く
無事好む母の遺骨よ冬晴るる
藤谷　純子　（宇佐市）

七五三晴着三代娘孫
秋雨の夜明けの汽車の音（ね）鳴り響く
菅原　啓子　（大分市）

小春日やローラにのりて麦をしめ
さざんかや我もわれもとよびかける
佐藤　良子　（国東市）

とんぼ行き野菊さみしくお見送り
遠き日をこたつで語る友が来て
井野　幸子　（大分市）

火の車ふところさむし風強し
しも柱足あとふかき万歩計
三重野　美智　（由布市）

湯けむりののぼれる先の冬の青
水仙花おとなバレエの初レッスン
犀ばば　（大分市）

入選

琴の音の止みて聞こゆる虫の声
集落の沈む湖面に浮くもみじ
長野　美智子　（中津市）

湯豆腐やゆれる心を掬ひあげ
一木の一枚として落葉かな
晶　子　（大分市）

去年今年１００才までは花作り
日脚伸ぶ自由の女神に人来る
浜田　玲子　（津久見市）

遠くより故郷照らす春の星
寒烏庭木にも餌を漁りけり
水田　和代　（臼杵市）

佳作

水底に落葉の色をうち重ね
泰然と男が二人納め句座
首藤　順子　（大分市）

デジタルに手こづり夜は冴え返る
はにかみて抱かるる孫や冬温し
榊原　妙子　（大分市）

鶏鳴の一本調子四方の春
薺粥コロナ籠りの子の部屋へ
阿部　うれしこ　（大分市）

三ヶ日過ぎれば広き我が家なり
春待つや孫一才の誕生日
花　音　（大分市）

用ひとつ増やして日永かな
パンジーを通りの道に集めけり
村岡　恭子　（大分市）

こゑの湧く出船入船漁始
宮総代に迎へらる初詣
目原　千鳥　（大分市）

トランプの口サメみたい世界のむ
縁側に黒猫坐り春を待つ
長谷尾　哲　（大分市）

初春や子孫曽孫と繋ぐ命
脱皮して己年も生きむ八十六歳
吉岡　早苗　（佐伯市）

地図片手旅番組で双六す
ＡＩにＤＸ・ＩＴ歌留多にも
いちこ　（大分市）

佳作

春野菜満載移動販売車
大寒やよもやよもやの孫来たる
岡　孝子　（大分市）

初春や友の初版の贈り来る
寒餅を搗いて二人の方便（たつき）かな
亀井　ゆきみ　（臼杵市）

入選

寒晴れや鳥つくばひに木の枝に
大鯉の顔に傷あと冬深し
下田　明美（豊後大野市）

初日待つオレンジ色満ちゆけり
孫はしやぐ北風とすべるすべり台
財前　紀子　（別府市）

かれきまつ　みどりのふくが　はよきたい
たうえすみ　いなだにぎあう　あまがえる
宮本　廣子　（宇佐市）

大寒に獣の声火を焚く
植木　庸夫　（大分市）

佳作

村奥に鉱泉湧きぬ春の星
海象（せいうち）の投げキッス受け敬老日
豊東　美智子　（大分市）

別嬪さんたたいて貰う大白菜
冬の草老老介護二十年
阿南　絹枝　（大分市）

初夢はろくなものしか出てこない
お年玉上げるものももらいたい
加藤　順子　（大分市）

好物に気になる体重食欲の秋
軒先に下がる柿に粉がふく
有田　奈穂子　（大分市）

カルタ取り昔懐かし子供たち
秋の夜ぐい呑み一杯おでん食べ
磯貝　胎子　（大分市）

五月雨のあいあい傘に胸はずむ
賑やかに焼き芋囲みエビスがお
大野　きみ子　（大分市）

青空に黄金色の麦畑
寒の入り恵方巻食べて心おおらか
佐々木　君子　（大分市）

桜もち取るか食べるか塩漬け葉
焼き芋を食べてびっくり舌焼いた
金崎　哲也　（大分市）

秋空に花咲くドッカーンなつかし顔
干し柿に母の手想う美味しくなあれ
呉藤　律子　（大分市）

雑煮食べ明日からしようダイエット
敬老会マイクもつ手ガチふるう
熊谷　直子　（大分市）

彼岸花小川の土手に顔を出す
ひまわりが今日も暑いと首廻す
児玉　重子　（大分市）

朝早にクマセミ大声友を呼ぶ
新年の冷酒いただき卒寿祝う
安藤　冬　（大分市）

蝉が鳴く生の短さ抗うがごと
床の間のあじさい褒めて酒旨し
霜凍　俊彦　（大分市）

咲きそめるひ弱に見えし水仙花
大寒は冬ウラウラの日向ぽこ
成田　安子　（大分市）

秋風と皆で歩く土手沿いを
青空と山の青さにススキの穂
本山　俊和　（大分市）

紅葉を心待ちして衣替え
みかんの香コタツと猫を思い出す
薄田　ミキ　（大分市）

十五夜の丸い月みて幸わせだ
和田　征子　（大分市）

待ちわびてぶどう畑に舌鼓み
田原　悦子　（大分市）

めぐり逢う初詣にて良き友に
利光 ハル子　（大分市）

ふきのとう外を眺めて出番待つ
寿 水　（大分市）

霊山の山に帰るは幼き日
若杉　杏子　（大分市）

メジロ来て早く春になってほしいな
清水　民子　（大分市）

くらやみを明るく照らすお月様
豊東 キヨ子　（大分市）

ゆずはワルツ黄色くて鍋のにおい
高橋 久美子　（大分市）

秋の夕ぐれスズ虫の鳴く庭の園
蔵本　一雄　（大分市）

卒業の涙と笑顔思い出す
河原　泰子　（大分市）

春が来て何を楽しもう今日の今
古城　雅子　（大分市）

なつかしいうたが流れる秋の空
猪原 ハツコ　（大分市）

車窓から見事な桜あざやかに
大津留 俊文　（大分市）

あじさいや机の上で笑ってる
森重　絹子　（大分市）

秋くれば子供のときの笛太鼓
三浦　静子　（大分市）

桜の下で顔を合わせて妻にした
岩崎　早美　（大分市）

陽がさして庭の片隅ふきのとう
友成 アキエ　（大分市）

春まだき冷たき風の中草芽ぶき
佐藤　香代子　（大分市）

秋の空息子の歩るくすすきの道
麻生　カヨ子　（大分市）

初もうで今年も元気に頑張ろう
安元　敏子　（大分市）

子思い栗ぶどうを食べるおとうさん
白石　睦子　（大分市）

送られたぶどう食べて笑顔出る
白石　次男　（大分市）

春がきた足もとくすぐるそよかぜよ
佐藤　敬一　（大分市）

ふきのとう又訪れし誕生日
高橋　ヤスコ　（大分市）

忘れずに花を咲かせる桜花
中森　マスミ　（大分市）

年越は孫やひまごのわらい声
上杉　春子　（大分市）

年重ねいつまで続くと寒椿
寺岡　サヨコ　（大分市）

賑やかにひ孫生まれてお正月
岩渕　秀子　（大分市）

デイに来て人の優しさ雪も溶け
今川　三千子　（大分市）

あぜみちに赤青黄色コスモスが
是永　信子　（大分市）

秋風が冷たく降るよ外の雨
松元　竹春　（大分市）

天高く昔なつかしくちびっ子の運動会
高野　節子　（大分市）

秋くれば思いだします鳥取の里
中本　小枝子　（大分市）

春がきた桜満関酒一合
後藤　隆志　（大分市）

秋風とどこまで行けるか試したい
河野　得子　（大分市）

ほととぎす咲けば近づく冬想ふ
和田　フジノ　（大分市）

美しい桜さく日にお誕生日おめでとう
甘い物お団子大好きお月見だ
関　美保子　（大分市）

卒業式とっくの昔で忘れたな
大嶋　夏子　（大分市）

春の日の読経の木魚休み休み
永山　忠孝　（大分市）

彼岸花夫の思い出なごむかな
梅崎　ツギ代　（大分市）

故郷の秋親友達に思いよせ
下田　サエ子　（大分市）

子の無事を願いつ祈る初詣
脇坂　富士子　（大分市）

つるし柿渋さもなくなる秋日和
中洲　タツ　（大分市）

鎮守さま今年も来たよ初詣
山陰　ムツ子　（大分市）

お月見に眺めし友ときれいだな
甲斐　洋子　（大分市）

紫陽花よこんな雨に咲いてくれて
葛城　仁　（大分市）

秋の空すすき並木がきれいです
福田　廣子　（大分市）

子どもの頃白灯台で水遊び
浦川　誠一　（大分市）

散らないで桜の花よ逢うまでは
井　安馬　（大分市）

3月の庭のすいせん春をよぶ
秦　ツヤ子　（大分市）

待ちわびし雨よありがとうひとり笑む
朝来野　幸子　（大分市）

ふきのとう芽をふっくらと春うらら
三宮　ミヤ子　（大分市）

春日より梅の小枝にうぐいすが
徳永　雅子　（大分市）

梅の木にウグイスとまり春誘う
玉利　佳史恵　（大分市）

ホトトギスや机の上にきれいだな
藤原　シマ子　（大分市）

にわさきに咲いたふきのとう春を待つ
橋本　キヨ子　（大分市）

※令和七年四月一日時点の満年齢です。

青い空あかく色づくひがん花
小野　隆子　（大分市）

ふきのとう春にめざめて顔を出す
岸本　成子　（大分市）

神社の風に吹かれて銀杏色に
四童子　直美　（大分市）

二食分ナスを炒めていただけり
大変だ十二人来るお正月
江藤　シズコ　（由布市）
奨励賞（女性最高齢者・一〇五歳）※

初夢で今年見たのは白蛇だ
百歳で護国神社初詣
江嶋　安生　（大分市）
奨励賞（男性最高齢者・一〇一歳）※

俳句づくりで健康づくりを

○俳句は「季題」の詩
原則として、「一句に季題はひとつ」です。
季語は日本人の季節感が、ぎゅっと閉じ込められた「宝物」。
ご自身の俳句の内容と季語があっているか、が重要です。

○五七五のリズムが大事
日本語の特徴は、五七調や七五調のリズム感。
松尾芭蕉は「舌頭に千転せよ」と言っています。
何度も何度も口ずさんで、リズムを整えましょう、ということです。

○心の動きを大切に
雨が降ったら雨の句を、天気が良ければ外に出かけてみましょう。
外出が難しければ窓を開けてみるだけでも良いですよ。
何かしら新しい発見があるかもしれません。

○俳句を「読む」ということ
歳時記の例句、お気に入りの俳人の句集、新聞や俳句雑誌の入選句などを読むことをお勧めします。
いろいろな表現の仕方があることが分かります。

大分県俳句連盟　阿部　王一

「大分県俳句連盟の紹介」《会長 吉原白天》

1．目的

本会は昭和46年に設立され、俳句文学の向上と詩情豊かな人材育成に努めています。

2．主な活動

⑴　毎年11月に「大分県俳句大会」を開催します。

①　当日句会の部

・令和７年11月24日（月　振替休日）　10：00～16：00

・J:COM ホルトホール大分　３階大会議室

参加・投句料　1,500円

②　募集句の部

・募集期間　６月10日（火）～９月５日（金）

・投 句 料　２句１組（何組でも可能）　１組：1,000円

③　新人賞の設定

・新人会員から作品（20句）募集し優秀作品を表彰します。

④　「俳連年鑑・一人二句集」の発行（本代 2,000円）

会員から自撰２句の応募を受け、本として発行配布しています。

⑵　小中学生俳句大会の開催

募集期間　７月１日（火）～９月18日（木）

3．会員募集中

・年会費　2,000円

・入会資格に制限はありません。

・問い合わせは下記事務局へお願いいたします。

事務局　〒870－1185

大分市ふじが丘西１丁目13番８号　佐藤一男　方

電話 090－2582－1272

川柳の部

課題「くすり」

審査協力　大分県番傘川柳連合会

	応 募 者 数	作　品　数
川　　柳	（人） ２０８	（点） ４１１

川柳全体評

これならどうだ。二百八名から四百十一句。大会でなければ全員に挙げたい及第点。ワクワクしながら選をさせて頂きました。その中で自分流で満足の方、中八、下六に気付かず投句の方、残念でしか言い様がありません。

基本は五七五、大会である以上「一読明快」な句が目に留まる。これも止むを得ない事としてご理解を頂きたいと思っています。

私達の川柳会では、残念と思える方を募集しています。一緒に勉強してみませんか。

大分県番傘川柳連合会
幹事長　髙木　豊柳

福澤　廣明　選

特　選

効いたのは医師の一言「治ります」

後藤　洋子（豊後大野市）

〈評〉下五の「治ります」の言葉で、どれだけ患者は安心するでしょうか。「先生どうでしょうか」と尋ねて、返事に断定的な言葉を聞いたら、とてもうれしいと思います。普通は疑問詞の言葉から、逆のひねりのある句になりました。

入　選

何よりも良く効く薬大笑い　　**晩白柚（宇佐市）**

〈評〉効能は色々書いてありますが、一番効くのは、笑いのある対話や交流だと思います。人間関係が、希薄だったら笑いは出ないでしょう。

入　選

紙風船思い出を吹く置き薬　　**遠藤　隆久（別府市）**

〈評〉富山の置き薬の句は、沢山ありました。代表してこの句を選びました。置き薬の配達の際に風船を貰ったのでしょう。「思い出を吹く」が良かったです。

入　選

薬膳は体にしみる贈り物　　**吹田　満子（佐伯市）**

〈評〉医学的な薬から離れて、古来からの薬膳にスポットを当てる。見付けが良かったです。科学より自然からの恵みによって体を治すことでしょう。

藤田　勘芳　選

特　選

良薬は妻の小言と三０００歩

高橋　利光（佐伯市）

〈評〉小言を薬にする寛大さ、それに3千歩のウォーキングと、心と体のバランスを大事に生きている姿が目に浮かびます。人生百年の時代です。各々の老後を如何に全うするかという課題を与えてくれた句だとおもいます。

入　選

くすり漬けそれでも目ざす白寿の日　　高治　保子（佐伯市）

〈評〉くすりで生かされた身でも、白寿に向かって生きる姿に感動と力を頂きました。目標に向かって頑張ってください。応援していますよ。

入　選

母に似てくすりと笑う子の仕種　　岡野　しずこ（国東市）

〈評〉遺伝子は争えませんね。えがおや仕種が母ゆずりで、親としてはたまらなく可愛いことでしょう。お母さん共々感無量ですね。

入　選

晩酌と笑顔の妻が常備薬　　喜一郎（国東市）

〈評〉晩酌や妻の笑顔が薬とは、男性にとって羨ましい限りです。どうか飲み過ぎには十分気を付けて、良い人生を送ってください。

高木　豊柳　選

特　選

真夜中の点滴闇を引き寄せる

飯干　美恵子（別府市）

〈評〉不安と恐怖。真夜中の点滴。夜のしじまに響く呻き声。「生きたい」と痛みに耐えながら見る時計。助けてくれと母を呼び、父を呼ぶ。朝は来る。必ずやってくる。ここまでに思いを馳せる一句に出会いました。

入　選

朝十錠昼は二錠に夜四錠　　甲斐　公尊（由布市）

〈評〉古希を過ぎ老いの一日薬漬け。これが当たり前だと、延びる寿命。歳毎に増える薬。平均寿命は百歳も視野に。生かされますよ薬には。

入　選

ほめ言葉万能薬のごとく効く　　大野　浜子（臼杵市）

〈評〉小麦粉を胃腸薬と思わせた医者。使いようでは、万能薬にもなるほめ言葉。心が治す病。知るべきですよ関係者。

入　選

喜寿迎えくすり要らずに感謝して　　風花（別府市）

〈評〉感謝は神か、仏か、先祖か。はたまた家族か。思いが膨らみます。善行の成果に喜寿はまだ半ば、頑張る貴方を応援しています。

リスク掛け朝昼晩で13錠
那賀　範雄　（大分市）

節約は美徳くすりに日々励む
一年中くすりに頼る高齢期
宗方　正弘　（大分市）

効いてくる妻の小言と粉薬
父の檄（げき）くすりのようで感謝する
井上　正彦　（中津市）

同級会クスリの数を競い合う
飲む前にツブを数えて確認す
宇都宮　悟　（別府市）

薬づけいつまで持つかこの体
まちがえた同じ薬を二度も飲む
深田　博文　（竹田市）

薬のみ朝のめざめにあんどする
良薬は口に甘しにさまがわり
日名子　隆　（大分市）

薬飲み今日も1日生き延びる
薬局のお世話になって40年
原田　洋治郎（豊後大野市）

佳作

何度でも薬の効かぬ浮気者
孫仕種くすり笑えるあどけなさ
樋口　繁子　（杵築市）

いつからかご飯のお供飲みぐすり
年寄りのくすりは孫の笑い顔
坂本　昭彦　（宇佐市）

ばあばには君のえがおがくすりなの
筆を持つ心のくすりおだやかに
陽　香　（大分市）

湿布薬腰へ二枚の風呂あがり
鼻風邪の特効薬や玉子酒
中鶴　政子　（佐伯市）

薬の管理まだ出来るから大丈夫
良薬はハートときめき老い予防
梨木　静代　（中津市）

診察日治療くすりで時がすぐ
苦くても我慢で飲み干す良薬を
中野　幸輔（豊後高田市）

佳作

薬草は家族を守るかかりつけ
懐かしい越中富山の薬箱
くんちゃん　（大分市）

薬石が五臓六腑に沁み渡る
神渡し全国の神出雲へと
柴田　昭三郎　（大分市）

この病くすりと笑うものであれ
油布　晃　（竹田市）

くすり飲み今日の日課の始まりだ
毎日がくすり飲むのが仕事なり
衞藤　義治（豊後大野市）

飲み薬オンパレードだ病い去れ
ボケ防止飲み忘れてはなんの事
つわぶき花　（津久見市）

飲みました毒婦がついだ屠蘇だもの
良いくすりでしたと笑う立ち直り
松田　みちる　（玖珠町）

佳作

古希という妙薬を得てもの忘る
恙なく老いの薬は子の笑顔
中島　尚之　（国東市）

時と言うくすりで癒す心傷
被災地に即効薬はボランティア
まり子　（別府市）

睡眠がくすり代わりと八時間
薬草湯浸かって過ごす週二日
矢野　肇　（大分市）

食卓に並ぶくすりで満腹感
置ぐすり支払ふ額はカットバン
荘田　泰代　（臼杵市）

くすり指婚約指輪ツーショット
薬玉を割って巨船が滑り降り
神徳　和雄　（津久見市）

くすり指光るリングも老いの道
人生で恥をかくこといいくすり
井上　のり子　（中津市）

薬飲み忘れて顔の艶がよし
着膨れて薬飲むこと日に三度
大分市みやび　（大分市）

核の傘さしたい人に効く薬
メールするフレイル予防に効く薬
佐藤　文人　（由布市）

不思議だな飲んだつもりが飲み忘れ
日に一度飲む薬なぜ忘れるか
入学　ひさみ　（宇佐市）

入選

無農薬うちの野菜は虫も好き
何よりも良く効く薬大笑い
晩白柚　（宇佐市）

毎食のデザート変わり飲む薬
ドラマかななんだサプリのコマーシャル
外園　福子　（中津市）

良薬は孫との会話テレ野球
一気飲み薬九錠姉米寿
穴井　和子　（玖珠町）

年ごとに増える薬や賀状減る
川柳やくすり色々笑顔呼ぶ
撫　子　（国東市）

八十路だよ笑いをくすりにゆっくりと
脳活に川柳一句くすりかな
佐藤　逸男　（日出町）

佳作

あんたの声元気もらえていい薬
百生きて薬いらずの笑い皺
深田　鈴子　（大分市）

きびなごの煮付けはくすり母の味
吾(あ)が妻のアメタの煮付けくすくすり
宮﨑　誠一　（別府市）

佳作

ちぐはぐな眉に鏡の義母クスリ
祖母の知恵咳にキンカンむせる孫
山本　泰光　（国東市）

終戦のくすり無き世に父は逝く
生姜湯のつきあう五体くすりとす
松本 己代子　（中津市）

春の旅まずはバッグにくすり入れ
三食が何よりくすりと芋洗う
桜井　勝己　（竹田市）

佳作

無理押しにサプリ効果の鼻薬
薬効の足を引っ張る副作用
稲留　俊信　（中津市）

くすり持ちあれは何処かと探す父
くしゃみをしクスリを飛ばしまっ白け
ナ ナ　（日出町）

一人ってとても不便な貼りぐすり
闇バイト止めるくすりを探すデカ
村上　伸男　（別府市）

どくだみの香り感じて祖母うかぶ
からだ中良いとこ無しの薬づけ
衞藤　幸也（豊後大野市）

首傾げ余ったクスリに話かけ
薬草で健康願うユズの風呂
佐藤　都子　（国東市）

幸せのダイヤ輝くくすり指
外されて淋しくなった薬指
浜崎　千六　（国東市）

入選

置けば立つ薬手帳のこの重さ
母に似てくすりと笑う子の仕種
岡野　しずこ　（国東市）

くすりまだ今飲んだわよ又飲むの
お呪(まじな)いくすりの代り今元気
矢野　節子　（大分市）

蕺草(どくだみ)は十薬(じゅうやく)にして塗る汗疹(あせも)
良薬は口に苦きのアドバイス
久住農人　（竹田市）

八十坂を薬を杖に登りおり
飲み忘れ死んでいないとにが笑い
海老納(えびな)　眞則(なおのり)　（竹田市）

愛犬の写真がくすり父和む
手がくすりもんでさすってあたためて
岩屋　イツ子　（別府市）

佳作
サプリのみ身体こわしてくすりのむ
何よりもあなたの笑顔くすりです
渡邊　哲雄　（豊後大野市）

佳作
薬より言葉のチカラ効く病
インフルが予防注射をあざわらう
手島　俊行　（日田市）

入選
くすり漬けそれでも目ざす白寿の日
常備薬いつもポッケにガードマン
髙治　保子　（佐伯市）

飯食べた後はくすりで満腹に
多過ぎて何のくすりか判らんわ
夢　豊　（大分市）

くすりづけならぬようにと気配りを
戦前派くすりに頼る年になり
木元　キクヱ　（大分市）

くすり指嵌（は）めてもらいし今金婚
薬ナシ年のせいですお医者さん
れっこ　（佐伯市）

佳作
諍いは日にち薬と子に諭す
人生に薬味を添えてくれる妻
加藤　賢二　（豊後大野市）

薬膳酒ほろりと酔うて不死の夢
今日生きて明日の夢の処方薬
後藤　正人　（大分市）

いつの間にクスリ道連れ百寿旅
飲んだのに残るクスリは謎だらけ
大下　昭子　（大分市）

何よりのくすりは笑顔看護師さん
トレパンで走りカツ丼くすり好き
藤原　啓司　（大分市）

配置薬出番をそっと待っている
比べ合う薬の数に大笑い
衞藤　晴美　（豊後大野市）

七粒の薬がすべて我が余命
父母(ちちはは)の教えくすりの八十余(よ)
安達　郁雄　（国東市）

まちがえんぞと薬に日付けかき
石野　潤二（豊後大野市）

友達とランチ終えて飲む薬
朝食後薬飲んだか聞く主人
小山　ヨリ子（豊後高田市）

転がったくすりを捜す部屋そうじ
温泉と薬師如来と新薬と
吉田　紫紅　（別府市）

野良帰り今夜のくすりあれとあれ
くすり飲み何があっても忘れない
小野　勝子（豊後大野市）

薬飲むために三度の食事する
薬害の記事に気になる類似品
御手洗　金重　（佐伯市）

風雪もくすりと耐えた老いの自負
失敗をくすりに育つ出世魚
佐野　弘一　（大分市）

闇バイト金の毒薬のまされて
プーチンの衰え知らず薬喰
湖　人　（津久見市）

薬にも勝る故友のアドバイス
躓いた過去が薬に老い生きる
加藤　京子（豊後大野市）

八十七時間厳守で服用す
若い頃決復(かいふく)早さに無駄にした
穴見　ヒデ子（豊後大野市）

入選
佳作

紙風船思い出を吹く置き薬
師の拳固ちゃんとくすりになって今
遠藤　隆久　（別府市）

佳作

薬より良く効く友のアドバイス
紙風船もらう楽しみ置き薬
遠入　和子　（中津市）

酒煙草すぱっとやめて薬飲む
ありがとう薬の効果で生きている
槌谷　啓輔（豊後高田市）

処方薬治療薬に生命薬
麻生　孝久（由布市）

入選
朝十錠昼は二錠に夜四錠
増薬を説明するもこれ何だ?!
甲斐　公尊（由布市）

何やそのあれやこれやと過薬品
「食」代わり薬の数で脳トレだ
小原　保郎（由布市）

爺婆がクスリ見せ合う平和の日
クスリ飲み明日の元気祈りつつ
江戸　文武（由布市）

寒強し手足が招く薬箱
クルーズを夢みて心はクスリ箱
古城　千佐子（国東市）

飲んだっけついうっかりの常備薬
名残りある薬の箱に親偲ぶ
小野　孝子（豊後大野市）

日がくすり痛い痛いのとんでった
心身のバランスくすりより大事
中　徳治（中津市）

老ひ二人クスリのおかげ今日も生き
健康長寿クスリの魔法杖として
小倉　栄代（豊後大野市）

佳作
里山のヨモギで治すキズ薬
新薬を我が身でためす研究者
関谷　百子（大分市）

佳作
最強だ薬の効かない人だもの
伝説の名医くすりと針治療
河野　敏夫（国東市）

酒少少これがくすりと笑む親父
飯おかわりくすり忘れた回復期
桑原　繁夫（由布市）

特選

御朱印と句とお薬の帳を手に
効いたのは医師の一言「治ります」
後藤　洋子（豊後大野市）

鼻薬効きすぎたのか副作用
常備薬水が無ければ飲めません
西東南北（国東市）

佳作

長生きの薬は趣味と仲間たち
良くなった証か薬つい忘れ
内藤 幸一郎（由布市）

大丈夫くすりいらずの母のハグ
ピンコロリ願うもちゃんと飲みくすり
大塚　幸（大分市）

佳作

毎食後錠剤８個デザートに
百薬の長が時々効き過ぎる
金丸　土竜（佐伯市）

いま欲しい「終戦薬」トランプ錠
薬なの？アプリとサプリのカタカナ語
田辺　哲郎（大分市）

毎食後くすり分別おおわらわ
老い二人くすり飲んだか合言葉
割石　哲（中津市）

三十年くすりが紡ぐ吾が命
常備薬和顔愛語はよいくすり
徳久 ふみお（杵築市）

佳作

ほんのりと甘さと苦み恋ぐすり
待ち合い室くすり話に花咲かす
河野　光子（杵築市）

薬飲み今日も一日生き伸びる
晩酌は薬飲むより力湧く
加藤 喜久子（津久見市）

生きてゐる自然は最良のくすり
くすりこそ何より勝る処方箋
小倉　英司（豊後大野市）

愚痴こぼす夫の本音にクスリ笑み
薬より医師の笑顔に元気出る
平　廣子（別府市）

ボケ防止くすりと信じクイズ解く
幼き日ヨモギを揉んだ傷ぐすり
堀　冨士子　（竹田市）

仲良しの湿布と胃散ゴールまで
痛み留め真面目に飲まぬ患者です
池口　澄子　（中津市）

叱責のくすりが効いていい感じ
事を成す塗炭の苦労いいくすり
大谷　和幸　（国東市）

初デート凛と紅引くくすり指
鼻ぐすり効かすお主は悪よのう
道　明　（大分市）

人のため役立つことがわがくすり
家族より親身な声掛け薬剤師
白野　里美　（由布市）

効くのかなくすりと笑い飲む薬
適量が分かりにくいな塗り薬
諸冨　幹夫　（国東市）

あちこちのくすり飲み過ぎ肌掻し
年寄の今の生活くすり漬け
清　柳　（竹田市）

治癒力は亡き母よりの万能薬
最良の薬は良く食べ良く眠れ
あやか　（豊後高田市）

薬効き患者が減って困る医者
だんだんと薬の増える老齢期
明　笑　（豊後高田市）

目くすりは息子の目を守る命かも
長生きをせよとくすりのてんこ盛り
みつこ　（佐伯市）

目薬の浸みてあふるる朝のこと
血圧の薬との仲宜敷ね
宇薄　晴美　（臼杵市）

信じてる命預けて飲む薬
朝食後互いに薬飲んだかと
米持　とも女　（宇佐市）

佳作

朝食後くすり夕食前に酒
百薬の長にも勝る師の遺訓
角渕　春美　（中津市）

忘れずに血圧の薬飲む日課
壮年の息子飲む薬母に似たり
大神　愛子　（豊後大野市）

佳作

佳作

さかさまに読めばリスクのくすり飲む
苦いなあ名前が妻に似たくすり
猪俣　裕美　（別府市）

百薬の長でおいらは肝ガンに
成長を見守る薬父の檄
照　哉　（日出町）

入選

幾千の痛み耐えずにくすり飲む
薬膳は体にしみる贈り物
吹田　満子　（佐伯市）

老坂の古錐にあまた生薬あり
国民の酒焼酎か媚薬めき
端　鳥　（国東市）

此の薬今の元気の保証人
側にいて長いつき合い薬箱
小平　力　（豊後大野市）

渋面の夫特効薬は孫訪い来
十薬の干さるる軒端夕の風
西村　敦子　（国東市）

佳作

コンビニの薬でしのぐ夜明け前
思い込みそれがいちばん効く薬
理　人　（宇佐市）

戦などしない薬のあらまほし
幼な子は薬に代わるおまじない
凜　亮　（宇佐市）

佳作

思ひ出は紙風船の置き薬
野や山の薬草祖母の知恵袋
瑠　璃　（宇佐市）

汝（な）の笑顔こそ万病に効く薬
薬喰ひ猟師の家のおもてなし
後藤　明彦　（宇佐市）

節くれたくすり指には婚指輪
くすり指ふざけてはめた花指輪
長畑　孝典　（大分市）

髪うすくはえろはえろとくすり塗る
死にたいと口ぐせの友もくすり飲む
安藤　淑子　（大分市）

診察日余りし薬不思議なり
薬箱懐かしきかな越中富山
藤延　秀則　（豊後高田市）

子の見舞治療薬より元気づく
起きて先ず目薬一滴わが日課
いぶき　（杵築市）

歩くのが薬と云われ医者通い
ＣＭ無し富山の薬如何かな
やんりん　（日出町）

眉唾の万能薬を買いにけり
猪を撃ち村中は薬食い
紫苑　（国東市）

残されしくすりの袋夫(つま)愁ひ
くすり箱新しくして飲み忘れ
敏子　（大分市）

佳作

何故出来ん戦争狂に効くくすり
薬局は杖とリュックで胸を張り
曽宮　点　（佐伯市）

何よりも三度の食事が良きくすり
身の健康くすりと笑いくすり飲む
ショウリンハン（豊後大野市）

米寿のくすりは不要百歳
飲みづらさ今は満足あのくすり
橋本　政臣　（中津市）

薬歴の一ページ目は水虫薬
川柳の投句が吾の長寿薬
奥野　律子　（宇佐市）

古希が来たおまけにくすりついて来た
一日をくすり時間に支配され
神田　知子（豊後大野市）

薬きき我が子の眼(まなこ)一やさし
「くすり」は富士山の水
三重野　憲治　（宇佐市）

地球にも欲しい温暖化のくすり
玄関におくすり袋落ちてます
談　亭　（中津市）

今年また風船が来る置き薬
日が薬信じて過ごす病み上がり
手嶋　欣一　（国東市）

老いの坂薬と共に上ります
歳とれど薬いらずの達者人
鶴田　美智子　（国東市）

佳作

おしゃべりがくすりとなって消えるウツ
楽しんで趣味が暮らしに効くくすり
矢野　美佐江　（佐伯市）

佳作

たまご酒風邪が治ったくすりなし
手術いや薬で治療無茶を言う
中野　裕治　（大分市）

百薬をちゃんと飲んだと孫に言う
ときめいた薬さし出すその指に
まあちゃん　（杵築市）

山野草家の屋敷は薬やま
祖母の名言毒も薬も成ると良い
阿部　紀代香　（杵築市）

百薬の長です皆で飲みましょう
効きすぎた薬もいつか身に染みる
敦　厚　（別府市）

通販の効き目あやしき頭痛薬
食卓の裏で出を待つ薬箱
田中　英俊　（宇佐市）

親からの小言とくすりやはり効く
更年期以後は薬を手放せず
中山　カヨ　（杵築市）

バス旅行お薬タイムがちゃんとある
コマーシャル聞く度注文する薬(サプリ)
加津代　（大分市）

よもぎ手に幼き母の傷手当て
鳥さえもよもぎくすりと何故か知る
森田　さとみ　（大分市）

食事後のルーチンとなり薬飲む
百薬の長と豪語し煽る酒
村上　伴一　（大分市）

入選
晩酌と笑顔の妻が常備薬
叱られてこれも薬と前を向く
喜一郎　（国東市）

佳作
薬とはうまくつきあい長生きを
薬害のこわさを知った裏表
中村　洋子　（豊後大野市）

佳作
失敗が一番速い治療薬
孫叱るコレも立派な薬です
三代　洋一　（大分市）

健康に百薬の長さり気なく
脳に効く薬本屋で買ってくる
末田　洋一　（豊後高田市）

夫婦仲特効薬は孫の顔
家計には白髪バイトが欠かせない
ひなじい　（大分市）

くすり呑む採血検査異状なし
医者通いドクター信じくすり呑む
松川　眞代　（杵築市）

死にたいと訴える口で薬のむ
健康をうたう薬も毒となる
矢野　春子　（杵築市）

草かぶり楽になれよと薬云う
薬膳の名残り守りて御節なり
財前　春子　（杵築市）

自省ある大統領は世の薬
母貰う内科のくすり箱一杯
香嶋　章子　（佐伯市）

薬のむ死んでもいいと云ひ乍ら
山程の薬バッグに旅に出る
翠　（由布市）

佳作

くすり指光るリングに愛重ね
くすり増え百歳までちょっとむり
秋吉　民江　（中津市）

失敗をせんじ薬に七十路
衛藤　博幸　（宇佐市）

佳作

日向ぼっこ眠り薬を混ぜてある
女心酔わす特効薬は恋
泊　妙子　（大分市）

アレルギー祈りゴクリと新薬を
何気ない孫の一言気付け薬
中山　カンナ　（杵築市）

国産のワクチン横綱待ち焦がれ
同窓会薬自慢に孫自慢
岩尾　昭市　（日出町）

入選

ほめ言葉万能薬のごとく効く
無農薬ヒトの細胞浄化する
大野　浜子　（臼杵市）

おくすりをおしえて飲み合う老婦夫
飲むコーヒー認知の痛い先のばし
井上　久美子　（臼杵市）

まだ元気くすり飲む秋（とき）忘れない
卒寿でもくすりでつなぐお医者さん
井上　榮　（臼杵市）

うんうまい薬味おりなすハーモニー
別杯を薬と交わす夢うふふ
和田　道徳　（大分市）

高齢化薬のせいと怨み言
入れ薬紙風船を子どもらに
深藏　信俊　（国東市）

なりよりも良薬孫と長電話
配置薬つきあい長く断れず
猪下　スギ子　（国東市）

晩酌に勝てるくすりはまだ出来ぬ
お酒には勝てないくすり可哀相
幸　治　（別府市）

特選

末尾のンくすりの名前なんでだろ？
良薬は妻の小言と三〇〇〇歩
高橋　利光　（佐伯市）

命薬（ぬちくすい）と野菜ぎらい直さるる
爺ちゃんの特効薬は孫の声
衛藤　日出子　（竹田市）

古稀すぎて増えるくすりで生かされて
わっははは笑いくすりで和やかに
小河　三枝子　（佐伯市）

経過よし笑い薬で春が征く
病む前に笑い薬と球を追う
衛藤　弘子　（日出町）

人は減り薬ないのか未来地図
次の世につなぐ笑顔が常備薬
衛藤　芳丸　（日出町）

食後にと並べた薬飲み忘れ
セブに住む娘に持たす正露丸
是永　修身　（宇佐市）

逆転Vくすりとなった二連敗
万能薬母手作りの卵酒
田中　和彦　（大分市）

百才を目指し真面目に飲むくすり
一粒に期待して待つ頭痛薬
相田　いつみ　（佐伯市）

薬膳屋今宵の客は酒豪のみ
ネックレスいや肩凝り用爺はいう
本山　満理子　（臼杵市）

人生路薬を杖に長旅を
田舎こそそこに薬草お茶に飲む
三浦　千秋　（豊後大野市）

山の家置きぐすり屋が現在も来る
くすり賣りの唄能登地方に大地震
松田　君子　（大分市）

若返りどの薬より恋が効く
飲んだっけ聞かれて困る夕食後
中田　完子　（大分市）

飲み忘れ暦に赤い丸を書く
さあ寝るか最後の仕事白三ツ
藤永　勇　（別府市）

くすりより優しい言葉が老いに効く
赤チンを使った頃が懐かしい
麻生　英征（豊後大野市）

まだコロナ電話で頼みくすりとり
血圧のくすりのむのわわすれずに
穴井　政枝　（日田市）

母のことばくすりとなりて百か日
身にしみる母がくすりと百か日
吉武　恵子　（中津市）

寝しょんべん薬と言われまむし食ぶ
後藤さん子供のころは「後藤散」
瀬口　信三　（大分市）

薬よりくすりと笑ふくらしかな
薬指使う指文字苦戦する
かっこ　（大分市）

持病にてくすりのおかげ長生す
薬害で私の身体弱くなり
時枝　学　（由布市）

上津江は丸ごとクスリの大自然
妙齢とクスリに弱い年頃だ
畑中森のヒラメ（日田市）

寒卵くすりと思い飲んでおり
笑うのが一番のくすり合言葉
首藤　加代　（大分市）

特選

背をポンやさしき医者の手は薬
真夜中の点滴闇を引き寄せる
飯干　美恵子　（別府市）

饒舌なＣＭに負け買うサプリ
頑張れる体をつくる貼り薬
伯　昌恵　（豊後大野市）

失敗もよし成功のいいくすり
なぜかしら時々くすりの飲み忘れ
エイシュン　（大分市）

診査後投薬ふえずに昼御飯
一週間の薬仕分けはボケ防止
吉岡　早苗　（佐伯市）

五歳若くなる薬なら買いますよ
なぜ病院の隣薬屋や出来るのか
福澤　廣明　（中津市）

鬼の顔くすりマジック福顔に
ゆくりなく約束果たすくすり指
植山　哲男　（中津市）

くすり飲む夜のしじまの午前二時
年金日医者に薬局今日は行く
杉本　邦弘　（別府市）

目薬を差す時口が開いちゃうの
目薬の効能書きが小さすぎ
伊牟田　洋史　（国東市）

歳を喰い薬を食(は)んで八十路かな
むせび泣く演歌ではなく粉ぐすり
西尾　千秋　（別府市）

薬棄て湯けむり迎える湯治場へ
病臥して仙薬に勝る妻覚る
河野　一生　（大分市）

さあ飲もう薬は食後のデザートだ
引き出しは薬薬の背くらべ
窪田　悦子　（大分市）

のんでのんでのまれてのんだ
酒ではなくてくすりだよ
ハゲ頭恋わずらいに薬なし
長谷尾　哲　（大分市）

受診日に薬もらって落ちつける
我命薬(わがいのち)一位二位食事
狩生　カヨ子　（佐伯市）

医者の指示くすり三種のみ今日が始まる
便秘薬いのちの為に今日も飲む
狩生　一生　（佐伯市）

入選

フルコースあとのデザートくすり飲む
喜寿迎えくすり要らずに感謝して
風花　（別府市）

テーブルの一皿薬鎮座する
おまえだけ俺のくすりはその笑顔
上野　みずえ　（佐伯市）

飲むべきか飲まざるべきか光る君
年毎に仲間が増えてやんなっちゃう
雪ん子　（日出町）

佳作

ジェネリック安いと効き目無さそうな
薬づけ私の命のつなぎ綱
栗林　典子　（杵築市）

奨励賞（女性最高齢者・九十六歳）※

くすり箱どこに置いたか皆元気
さあ行こうくすり同伴老の旅
北山　爲友　（臼杵市）

奨励賞（男性最高齢者・一〇三歳）※

※令和七年四月一日時点の満年齢です。

一歩なら誰でも出せる一歩です

素晴らしい名句に出会いました。まだまだこれだけ多くの方々が川柳に興味を持たれていることを知り、川柳会をリードする者として、努力不足を痛感致しております。

昨年から始めた無料川柳教室。まだまだ空きがあります。川柳を学びたい方、更なる上を目指したい方、ご連絡下さい。県内どこでも出掛けて行きます。老いて行く脳に活力を与えてみませんか。

大分県番傘川柳連合会　髙木　豊柳

「大分県番傘川柳連合会の紹介」

《会長 坂本一光》

1．目的

本会は昭和43年に設立。県内12川柳会と３川柳教室を統轄し、番傘川柳本社に所属する。川柳の基本「穿ち」「軽味」「ユーモア」の三要素をもって人間諷詠を17音字に表現する会員の育成に努める。

2．主な活動

・毎月機関誌「川柳高崎山」を発行する。

・毎年10月に大分県民芸術文化祭ジャンル別行事として川柳大会を開催。

3．会費

・月刊高崎山の誌代として月700円

4．希望による本社同人への道もあります。

5．自分を思いっ切り表現する川柳を一緒に楽しみませんか。人生が変わるかも知れません。連絡お待ちしています。

連絡先　〒879－7306
豊後大野市犬飼町下津尾3396－1　髙木豊柳
TEL 090－1166－3160

第 36 回豊の国ねんりんピック
短歌・俳句・川柳展 作品応募状況

		第36回（令和7年度）	参考（過去3年の状況）		
			第35回（令和6年度）	第34回（令和5年度）	第33回（令和4年度）
募集期間		1/1 ～ 1/31	1/1 ～ 1/31	1/1 ～ 1/31	1/1 ～ 1/31
開催期間		5/13 ～ 5/18	5/14 ～ 5/19	5/16 ～ 5/21	5/17 ～ 5/22
短 歌	応募者数（人）	263	297	281	261
	作 品 数（点）	263	297	281	261
俳 句	応募者数（人）	433	410	428	417
	作 品 数（点）	788	754	781	764
川 柳	応募者数（人）	208	242	259	243
	作 品 数（点）	411	462	515	476
合 計	応募者数（人）	904	949	968	921
	作 品 数（点）	1,462	1,513	1,577	1,501

〔複数部門への応募者数〕

短歌と俳句 …… 20 人
短歌と川柳 …… 21 人
俳句と川柳 …… 25 人
短歌と俳句と川柳 …… 57 人

応募者数（男女別・市町村別・年齢階層別）

	短　歌	俳　句	川　柳
男	76	122	109
女	187	311	99
大　分　市	63	180	41
別　府　市	14	12	16
中　津　市	10	8	17
日　田　市	10	20	3
佐　伯　市	32	19	17
臼　杵　市	19	19	7
津 久 見 市	7	15	4
竹　田　市	14	14	8
豊後高田市	7	13	7
杵　築　市	13	11	12
宇　佐　市	15	24	13
豊後大野市	14	17	22
由　布　市	10	48	10
国　東　市	24	22	21
姫　島　村	0	0	0
日　出　町	7	6	8
九　重　町	0	1	0
玖　珠　町	4	4	2
～65歳	4	8	7
66～70歳	17	27	16
71～75歳	48	58	39
76～80歳	50	90	49
81～85歳	62	102	52
86～90歳	45	74	24
91～95歳	31	54	14
96～100歳	6	16	6
101歳～	0	4	1
応募者数合計	263	433	208

※年齢は、令和８年４月１日現在

※応募資格：令和８年４月１日時点で満60歳以上の方

次回応募用紙

短歌 部門

楷書ではっきりとお書きください

【短歌】

整理番号			短歌は1首のみ

郵便番号 ② ― 住　所	③ 氏　名 （フルネーム） ふりがな	①応募作品 ふりがなをつけて下さい。 作品１ ふりがな
	④ 性　別 男 ・ 女	
	⑤ 筆　名 （あれば） ふりがな	
⑥ 電話番号 ― ―		
⑦ 生年月日 大正・昭和 年　月　日生	⑧年齢 歳	
⑨ 所属団体（歌会）		

きりとり

きりとり

一人の出品数は短歌１首とします。

点線から切り取って、ご応募下さい。

次回も募集期間は、**令和８年１月１日から１月31日までです**。

あて先：〒870-0907　大分市大津町２－１－41　大分県社会福祉協議会

市民活動支援部　豊の国ねんりんピック短歌･俳句･川柳展係　です。

〒870-0907

大分市大津町2-1-41

大分県社会福祉協議会 市民活動支援部

豊の国ねんりんピック短歌係

お手数ですが
切手をお貼り
ください

応募はがき

※1月1日～1月31日の消印のみ有効

きりとり

きりとり

※募集期間外の応募は無効となります。
ご注意ください。

次回応募用紙

俳句 部門

楷書ではっきりとお書きください

【俳句】

整理番号			俳句（2句まで）

郵便番号	③ 氏　名	①応募作品 ふりがなをつけて下さい。			
② ―	（フルネーム） ふりがな	作品２	ふりがな	作品１	ふりがな
住　所					
	④ 性　別				
	男 ・ 女				
	⑤ 俳　号				
	（あれば） ふりがな				
⑥ 電話番号					
― ―					
⑦ 生年月日	⑧年齢				
大正・昭和 年 月 日生	歳				
⑨ 所属団体（句会）					

きりとり

きりとり

一人の出品数は俳句２句以内とします。

点線から切り取って、ご応募下さい。

次回も募集期間は、**令和８年１月１日から１月31日までです**。

あて先：〒870-0907　大分市大津町２－１－41　大分県社会福祉協議会

市民活動支援部　豊の国ねんりんピック短歌･俳句･川柳展係　です。

〒870-0907

大分市大津町2-1-41

大分県社会福祉協議会 市民活動支援部

豊の国ねんりんピック俳句係

お手数ですが
切手をお貼り
ください

応募はがき

※1月1日～1月31日の消印のみ有効

きりとり

きりとり

※募集期間外の応募は無効となります。
ご注意ください。

次回応募用紙

川柳 部門

楷書ではっきりとお書きください

次回の**川柳の課題は「あした」**です。

【川柳】

整理番号			川柳（2句まで）

郵便番号	③ 氏　名	①応募作品 ふりがなをつけて下さい。
② ―	（フルネーム） ふりがな	作品２ ふりがな 作品１ ふりがな
住　所		
	④ 性　別	
	男 ・ 女	
	⑤ 柳　号	
	（あれば） ふりがな	
⑥ 電話番号		
― ―		
⑦ 生年月日	⑧年齢	
大正・昭和 年 月 日生	歳	
⑨ 所属団体（句会）		

きりとり

きりとり

一人の出品数は川柳２句以内とします。

点線から切り取って、ご応募下さい。

次回も募集期間は、**令和８年１月１日から１月31日までです**。

あて先：〒870-0907　大分市大津町２－１－41　大分県社会福祉協議会

市民活動支援部　豊の国ねんりんピック短歌･俳句･川柳展係　です。

〒870-0907

大分市大津町2-1-41

大分県社会福祉協議会 市民活動支援部

豊の国ねんりんピック川柳係

お手数ですが
切手をお貼り
ください

応募はがき

※1月1日～1月31日の消印のみ有効

きりとり

きりとり

※募集期間外の応募は無効となります。
ご注意ください。

大会事務局

社会福祉法人大分県社会福祉協議会

市民活動支援部　長寿いきいき班

〒870-0907

大分市大津町２丁目１番41号　大分県総合社会福祉会館内

TEL（097）553－1150　　FAX（097）553－1160